# OTOMO KATSUHIRO




THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!

KODANSHA


AKIRA
CLUB

# OTOMO KATSUHIRO




**THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!**

# AKIRA CLUB

**OTOMO KATSUHIRO**

「ＡＫＩＲＡ」は1982年12月にヤングマガジンで連載を開始し、1993年３月の単行本６巻発売で幕を閉じた。本書はその10余年の全記録を目指したものであり、以下の４部で構成されている。

## AKIRA ILLUSTRATIONS

このセクションには、単行本カバーイラストとヤングマガジン表紙イラストを中心に、カラー画及びそのデッサン類を集めた。著者の作画意図として短いコメントを付してある。

## TITLE-PAGE COLLECTION

『ＡＫＩＲＡ』単行本ではストーリーの流れを優先したため、雑誌連載時の扉絵は省略されている。 このセクションにはその120回分の扉絵を完全収録した。その横に付したのはヤングマガジンの目次に入れられた当時の著者近況である。また、単行本各巻のまとまりごとに、連載時のタイトルロゴとリードを再現したコーナーを置いた。それと隣接して収められた見開きのカラーイラストは、スティーブ・オリフ氏が単行本の表紙絵を本書のために新たにカラーリングしたものである。

## MEMORIAL GALLERY

本書制作中「おもちゃ箱セクション」と呼ばれたここには、宣伝用ポスター、グッズ、各国版をはじめ、『ＡＫＩＲＡ』の周辺で作られたものをほぼ網羅した。

## UNPUBLISHED WORKS

連載執筆中、あるいは単行本化の際に変更され、ＮＧとなった幻のカット集である。単行本収録カットを並べ掲載し、著者の解説をつけた。著者の作画姿勢、テクニックなども読みとっていただきたい。また、作中人物のモデルなどについてもここでふれている。
なお巻末には､年表と連載時の編集部アンケートに対する著者コメントがある｡『ＡＫＩＲＡ』というプロジェクトを支持していただいた多くの人々に､『ＡＫＩＲＡ』がいた時代を再確認していただければと思う。

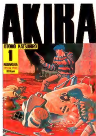
YOUNG magazine KODANSHA
Printed in Japan
First printing, 1995



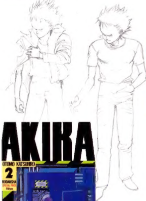
「AKIRA」新連載予告用イラスト。
ヤングマガジン'82年12月6日号に掲載。
266㎜×388㎜。
「連載前、キャラクターが未だ混沌としている時に描いたものです。主人公が少年ということだけは決めていましたからこれなら嘘にはならないだろうと思って描きました」

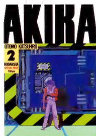


単行本１巻カバーイラスト。
364㎜×514㎜。
「ページ数と内容と絵、どれをとっても、アメコミ風の濃い世界というか、ボリュームのある単行本にしたかったんです。このイラストもボリュームを出すために、意識的に厚く塗っています。こんなに厚塗りしたのは生まれて初めてです」



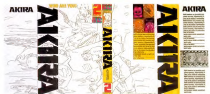

単行本１巻。初版は'84年９月21日。Ｂ５版、黄色の小口、表紙はすべて英語表記など画期的造本でセンセーショナルな話題を呼んだ。
「世界展開を考えて、英語や中国語を使ったわけではありません。新しいものを創りたいという意気込みはすごくありました」






単行本２巻。初版は'85年９月４日。小口の色は浅葱。左はそのイラスト。514mm×364mm。
「１巻がホットなイメージ。ならば２巻はクールでいこうと思いました。カバー裏はビデオ処理です。ビデオのカラーバランスを変えて何度も処理するわけで、講談社のビデオを使用不可能にしてしまいました」



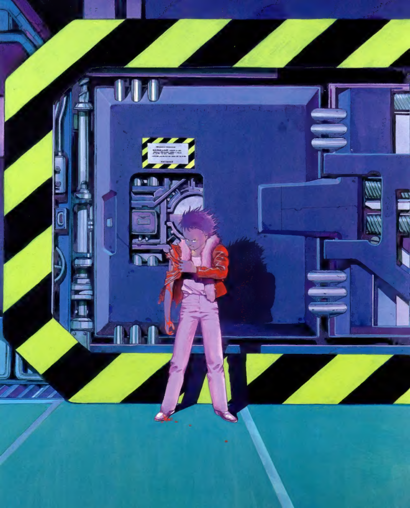







上の３点は単行本１巻カバーデザイン案。
「デザインが決定するまでに、ずいぶん時間がかかりました。ボリュームも出したいし、無国籍の感じも出したい。試行錯誤の連続で、発売が遅れてしまいました」
下は単行本の見返し。
「これは『冒険王』に連載していた福島鉄次さんの『砂漠の魔王』を意識しました。あのアメコミ風の色使いが大好きで、いつかは自分もしてみたいと思っていたのです」



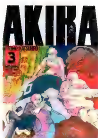


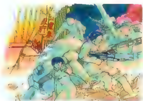


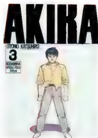

単行本3巻カバーイラスト。
361㎜×511㎜。
「1巻はアメリカン、2巻はヨーロピアンをイメージしています。3巻はオリエンタルな雰囲気を出そうと思い、背景の看板や全体の色調などに工夫しています」



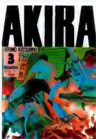
単行本第３巻の読者プレゼント用ポスター。
726㎜×1022㎜。



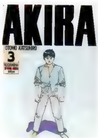


カバーイラストのマーカー画
「着色原稿を描く前には、必ずマーカーで試し塗りをします。
全体のイメージをつかむためには、絶対に必要な作業です」





単行本３巻
初版は 86年９月１日。
小口の色はオレンジ。



単行本３巻カバーデザイン案。
「１巻２巻と派手な色を使ってきたので、３巻はホワイトを基調としたシンプルなカバーがいいかなと思ったりもしました。でも結局後戻りはできないなと思い直したわけで、派手なオリエンタル的カバーになりました」



単行本4巻カバーイラスト
515mm×363mm。
「石段の部分の微妙なグレーが出るかどうか心配で特色のグレーを使いました」



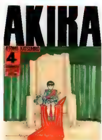
単行本４巻カバーイラスト下絵。

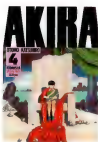




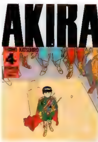


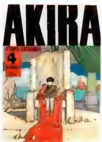





上は単行本４巻。
初版は '87年７月10日。
小口の色はパープル。
左は読者プレゼント用ポスターで
1022mm×726mm。




単行本４巻カバーデザイン案。
「単行本カバーは１巻から動→静→動と来てましたから、順番で４巻は静の絵だなと思っていました。で、座ってるアキラを描いたけど、どうも気に入らない。立たせても気に入らない。また座らせて今度はカーテンを開けたら、ぱっと世界が広がったんです」








OTOMO KATSUHIRO



# AKIRA

**2020** a.d., superieur secret d'Etat. Le

par la scene de vastes gravants et se lance

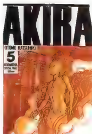
Le quatieme volume de neo-OHTOMO action qui attire le regard meme au pays d'outre-mer en construisant tout a fait nouveau monde d'image de S.F. japonais !

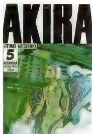


**PART 4**
SPECIAL PRICE
1000yen
**KODANSHA**



単行本５巻カバーイラストの下絵。
「ここから色を塗っていくわけですが、単行本の仕事、つまりカラーの仕事は１年に１度程度で勘を取り戻すだけで大変でした。特に、これは背景にある光線がなかなかうまくいかなくて、苦労した記憶があります」




単行本5巻カバーイラストのマーカー画。
「２パターン塗ってみて、自分としてはオレンジの方が気に入っていたんですけど、周りのみんながグリーンの方がいいと言うもんですから」




上は単行本５巻。
90年12月11日初版発行。
左はそのイラストで
514㎜×362㎜。





単行本５巻カバーイラストのラフデッサン。「４巻までのカバーイラストは内容に連動してません。５巻からは、中に収録されるシーンからイメージして描くようになりました」








単行本６巻の読者プレゼント用
ポスター。1022㎜×726㎜。




上は単行本６巻。
'93年３月23日初版発行。
小口の色は黄丹。
左はそのイラストで
514㎜×362㎜。










単行本６巻のカバーイラストのラフデッサン。
「ラストですからカッコよく決めたかったんです。そのせいかラフの量が一番多くなってしまいました。金田の視線を正面に向けたいと思い、そのための、わざとらしくない状況設定を考えるのに苦労しました」








上はアニメ「AKIRA」レーザーディスク。88年12月15日発売
左はそのイラスト。513mm×459mm。
「レーザーディスクはレコード店で売られるということをかなり意識して描きました。アニメのジャケットはキャラクターをゴチャゴチャ描いたものが多いので、顔のアップで勝負しようと思ったわけです」

3枚組レーザーディスク
「スペシャルコレクションＡＫＩＲＡ」
パッケージイラストの
ラフデッサンとマーカー画。













「レーザーディスクも２枚目でしたから、何を描こうかなかなか決まらなかったですね。参考にファッション雑誌を見たりしていました。ここにあるラフなんか、どう見ても、男性ファッションモデルのポーズや着こなしですね。冷静に考えると、どうも、「ＡＫＩＲＡ」らしくない。漫画家は描く絵に困ると、こういうことをやり始めるという見本です。今見ると、これはこれでおもしろいとは思いますが」







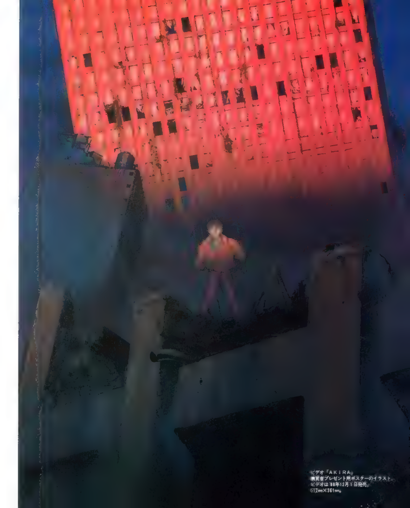

「スペシャルコレクションＡＫＩＲＡ
パッケージイラストのマーカー画。
「結局こうなりました。これは完全に自分で考えた絵です。それにしても、カラー原稿は自分の思った通りの色になかなか印刷されませんね。印刷技術の限界なんでしょうか。それとも使用している画材のせいなんでしょうか。10年前に買ったリキテックスを未だに使っていますから、そのせいかもしれません」




「スペシャルコレクションＡＫＩＲＡ
完成パッケージ。'93年３月25日発売。
「本当は上のラフのようにＡＫＩＲＡのロゴが小さい方が好みなんですけど」



3枚組レーザーディスク
「スペシャルコレクションＡＫＩＲＡ」の
パッケージイラスト。514㎜×458㎜



ビデオ『AKIRA』
購買者プレゼント用ポスターのイラスト。
ビデオは'88年12月1日発売。
612mm×361mm。



**アニメKC「AKIRA」1巻カバーイラスト**
363mm×249mm
「ここに描いたうちの何人かは、アニメ用に作った
キャラクターです　誰がそうだかわかりますか？」



アニメKC「AKIRA」2巻カバーイラスト。
363mm×265mm。
「アニメの美術の人がこんな色使いをしてたんです。
真似してみました。アニメ的世界観でしょうか」



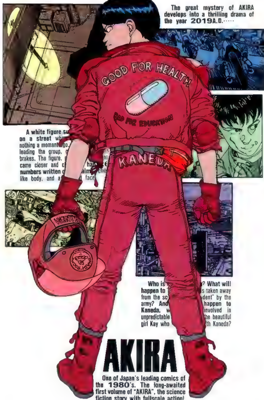
アニメKC「AKIRA」3巻カバーイラスト
384㎜×259㎜
「上の青と下の赤、分裂した鉄雄を表現したつもりです。どちらの世界に行くか、悩んでいるわけです」



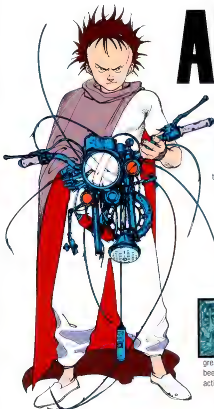
アニメKC「AKIRA」4巻カバーイラスト
363㎜×258㎜。
「アニメKCでは、小さくても目立つ絵を描きました。これなんて、いかにも表紙という感じですね」



アニメKC「AKIRA」5巻カバーイラスト。
363mm×257mm
「アニメKCのラストです。とは言っても、実は、
この5巻分はほぼ同時に描いたのです」

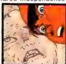



Tシャツ用イラスト。ヤングマガジン'86年7月21日号のプレゼントグッズ。
「文字配列などのデザインもやりました。結構気に入りまして、アニメのスタッフトレーナーにもなりました」

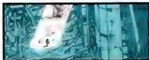


# AKIRA

**A.D. 2020.** In the western region of the great expanse of wasteland known as **Neo-Tokyo**, the **Great Tokyo Empire** which delfied the mysterious **AKIRA** together with the **DAIKAKU**, declared independence. What are the real intentions of **TETSUO** who commands the empire ? Also,



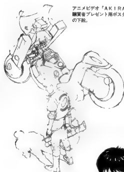
what is to become of **MIYAKO'S** army, destined to overthrow **TETSUO'S** empire ? Finally, what kind of fate must **KAY** and **KANEDA** who is lost without a clue face. **AKIRA** has become a SF action comic of



great controversy in our time. **AKIRA** has been published serially boasting over **1000** action packed pages.

## OTOMO KATSUHIRO

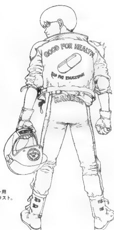
Ｔシャツ用イラスト。ヤングマガジン'85年7月1日号のプレゼントグッズ。
「鉄雄にグループを象徴するオブジェを持たせたかったのです。うまいことバイクのヘッド部分を思いつきました」



アニメビデオ「AKIRA」
購買者プレゼント用ポスター
の下絵。



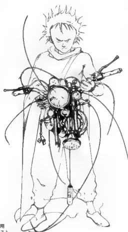
読者プレゼント用
トレーナーのイラスト。




読者プレゼント用
Tシャツのイラスト。

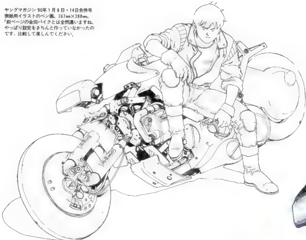


読者プレゼント用Tシャツの
イラスト。388mm×267mm。
「「AKIRA」初のTシャツ。胸
のワッペンには、NHKの「YO
U」の絵が入っています。我なが
ら芸が細かい」



読者プレゼント用
Tシャツのイラスト。

ヤングマガジン'90年1月8日・14日合併号
表紙用イラストのペン画。267mm×388mm。
「前ページの金田バイクとは全然違いますね。
やっぱり設定をきちんと作っていなかったの
です。比較して楽しんでください」







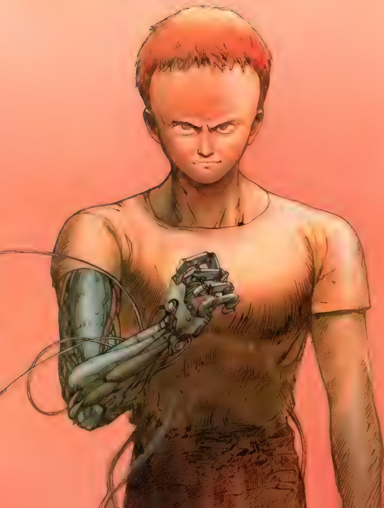

左上のペン画に、色見本としてマーカーで着色したもの。
「『ＡＫＩＲＡ』のアメリカ版はスティーブ・オリフが全ページをコンピューターでカラーリングしてくれました。それに対抗するというわけじゃありませんが、チントレップというコンピューター・カラーリング・システムが凸版印刷に導入されたので、ヤングマガジンの表紙用に着色してもらいました。それが日本で最初のチントレップ使用イラストでした」




アニメビデオ「ＡＫＩＲＡ
購買者プレゼント用ポスターのイラスト。514㎜×363㎜。
「実は、金田のバイクは描くたびに変わっています。設定がないので自分で描いていると、いつもいい加減なものになってしまいます」

ヤングマガジン'88年11月21日号
表紙用イラスト。429mm×327mm。
「表紙は雑誌の売り上げに影響しますから、文字の大きさや配列は編集部にお任せにするのが普通ですが、この時は自分で文字部分も含めてレイアウトしました。できるだけ文字を小さくして、絵を殺さないようにしたかったんです」



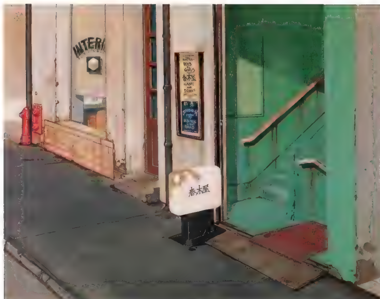






ヤングマガジン'82年12月20日号
表紙用イラスト。362mm×513mm。
「キャラクターが固まっていない時点で描いたものです。いったいこの少年は誰なんでしょうか。色味が気に入らなかったので、描いた後で、グレーのカラートーンを貼っています。表紙にした時はさらにモザイク処理を施しました」

右はヤングマガジン'86年12月5日号
表紙用イラスト。380mm×260mm。
「イラストセクションの中でも、かなり異質な絵だと思います。ヨーロッパコミックの影響が出ているので、他とは趣が違うのです。しかも全部カラートーンで着色しています。ちなみに右端の真ん中にある絵はアーノルド・ベックリンの「死の島」といいます。小さくて見えないか」




原画サイズ255㎜×361㎜。
「アニメ「ＡＫＩＲＡ」の美術担当に、どんな世界観でやるんですか？って聞かれまして試しに一回描いたものです。その人に見せたら、こりゃあ描くの大変ですよって言われてしまいました。ちなみに、荻窪に春木屋というラーメン屋がありますが、あくまでもこれは架空の風景ですから」

THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!

A

# TITLE-PAGE COLLECTION

episode 1 ~ episode 120


TITLE-PAGE COLLECTION
Episode 1-18

# AKIRA 1



Title page of **Episode 001**
*Young Magazine* (Dec 20,'82)

「12月20日に、東京紀伊國屋ホールで「しゅうを我等に」が一般初公開されます」



Title page of **Episode 002**
*Young Magazine* (Jan. 3, '83)

「ＵＨＦのアンテナをつけてテレビ神奈川を観た。面白いんでびっくりしています」



Title page of **Episode 003**
*Young Magazine* (Jan. 17, '83)





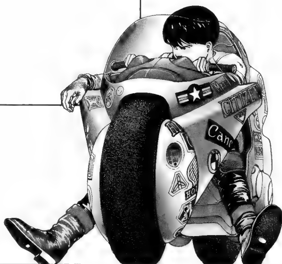
Title page of **Episode 004**
*Young Magazine* (Feb. 7, '83)

「今年の冬は大好きな毛ガニが高値で、なかなか手に入らず、頭をかかえています」



Title page of **Episode 005**
*Young Magazine* (Feb. 21, '83)

「虫歯が2、3本できて、ゆううつなのでそろそろ歯医者に行こうと思ってます」



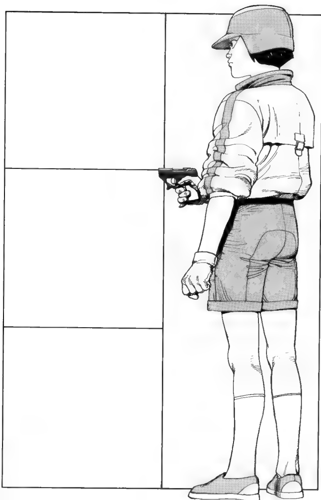

Title page of **Episode 006**
*Young Magazine* (Mar 7,'83)

「部屋の模様かえをして気分一新。新鮮な気持ちで『アキラ』に取り組んでます」



Title page of **Episode 007**
*Young Magazine* (Mar 21,'83)

「2月20日、友人の漫画家　高寺彰彦君の結婚式で伊豆の下田に行って来ました」



Title page of **Episode 008**
*Young Magazine* (Apr 4,'83)

「キャラクターデザインをした『幻魔大戦』上映中。よかったら、観てください」



Title page of **Episode 009**
*Young Magazine* (Apr 18, '83)

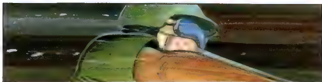
「ＮＨＫ教育テレビの「ＹＯ
Ｕ」のタイトルバックの絵か
今度、新しくなります」





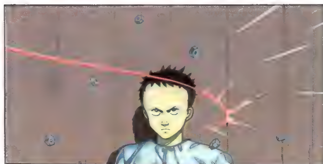




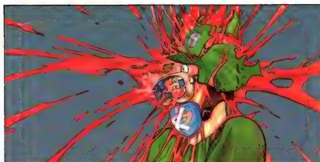



Title page of Episode 010
*Young Magazine* (May 2 '83)

「春あったかくて、ねむいです



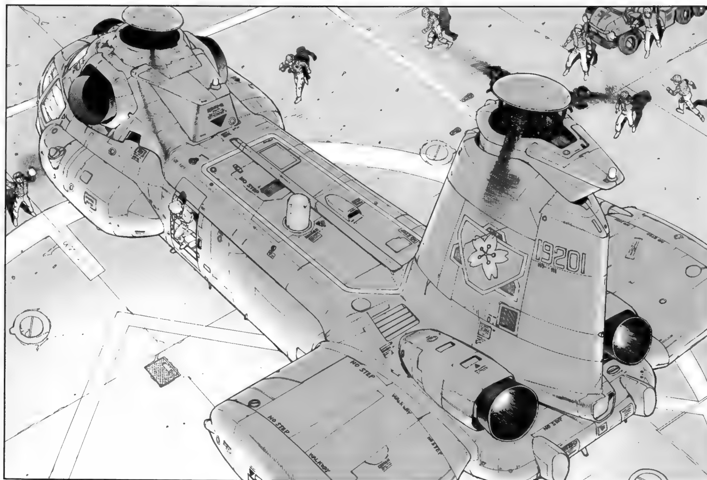

ドガッ










Title page of **Episode 011**
*Young Magazine* (May 16 '83)

「製作 監督した「じゅうを救助え」が5/18－5/22まで、池袋の文芸地下で公開されます。



Title page of **Episode 012**
*Young Magazine* (Jun. 6, '83)

「誕生日にもらったラジコンカーをついに完成させました」



Title page of **Episode 013**
*Young Magazine* (Jun. 20, '83)

「金沢に行って、足の指を開いた象を見た。山上たつひこさんの漫画は本当だった！」



**Title page of Episode 014**
*Young Magazine* (Jul. 4, '83)

「近くの公園に行って、フン
コンカーをよっせています」



Title page of **Episode 015**
*Young Magazine* (Jul. 18, '83)








Title page of **Episode 016**
*Young Magazine* (Aug 1, '83)

「待望の「童夢」の単行本(双葉社刊)が発売中です」

Title page of **Episode 017**
*Young Magazine* (Aug. 15. '83)

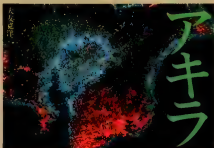
◆

で、どこに旅行に行こうかと
思案中です」



Title page of Episode 018
*Young Magazine* (Sep. 5, '83)

「伊豆で海水浴、まっくろけになりました」




## *Episode 1-18*

***perfect reproduction of the title pages published in Young Magazine***



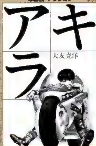
















連載10回記念巻頭カラー
ア
ドカッ


本格ＳＦアクション
大友克洋


本格SFアクション
アキラ
大友克洋


連載10回記念巻頭カラー
ラ


本格ＳＦアクション
キ


本格SFアクション
大友克洋
アキラ

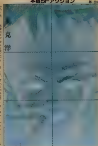

本格SFアクション
アキラ


SFアクション　ア　キ　ラ
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
第15回
大友克洋
アキラ


本格SFアクション
第14回
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
第13回
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
克
洋

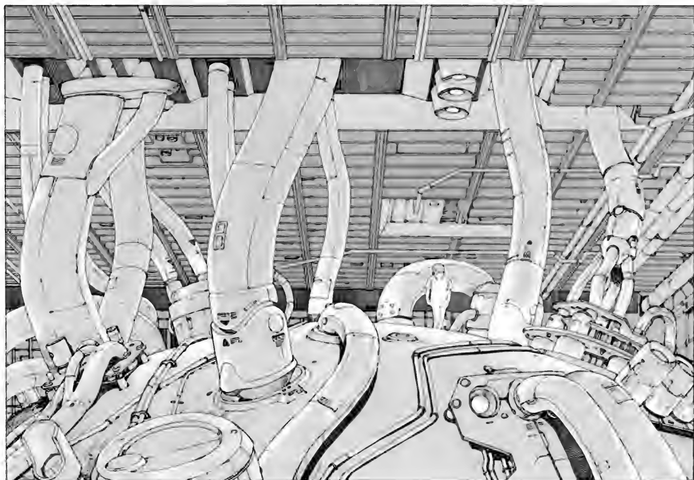

本格SFアクション
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
第16回

# AKIRA 2

# TITLE-PAGE COLLECTION

Episode 19-33



Title page of **Episode 019**
*Young Magazine* (Sep. 19, '83)

「猛暑の中、夏カゼをひいて
しまって2,3日寝込みました
マイッタ!!」



Title page of **Episode 020**
*Young Magazine* (Oct. 3, '83)

残暑が厳しいですね



Title page of **Episode 022**
*Young Magazine* (Nov 7 83

「仕事場のもようかえをして、
気分をカえてみました。



Title page of **Episode 023**
*Young Magazine* (Nov 21 '83)

「寒くなったのでコタツを入れました」



Title page of **Episode 024**
*Young Magazine* (Dec. 5, '83)

「今年の夏に買ったエアコンの調子が悪いので困っている」



**Title page of Episode 025**
*Young Magazine* (Dec. 19, '83)

「単行本 童夢（双葉社刊）」で83年度ＳＦ大賞を受賞しました。



Title page of **Episode 026**
*Young Magazine* (Jan 2, '84)

「やっとアキラが出せそうです」



Title page of **Episode 027**
*Young Magazine* (Feb. 6, '84)

「お正月が来てウレシイです。」



Title page of **Episode 028**
*Young Magazine* (Feb. 20, '84)

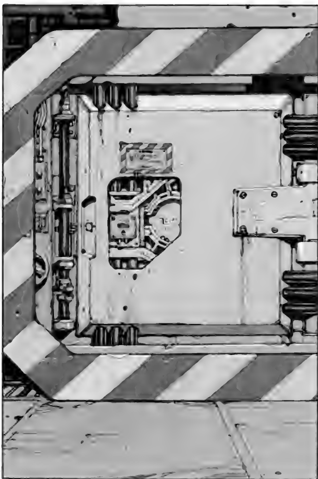


「キューブリックが映画をとることになったという夕刊の記事をみて、うれしかった」



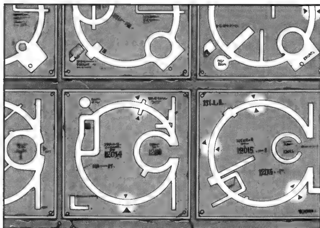
Title page of **Episode** 029
*Young Magazine* (Mar 5 '84)

「早くお花見がしたいですね」



Title page of Episode 030
*Young Magazine* (Mar 19, '84)

「体力作りのため、プールに
こうと思っています」





Title page of **Episode 031**
*Young Magazine* (Apr 2 '84)

「桜前線は今、どのへんまで来てるんでしょうね」

Title page of **Episode 032**
*Young Magazine* (Apr 16, '84)

「カラーをたくさん描いて、忙しかったです。

**Title page of Episode 033**
*Young Magazine* (May 7 '84)

「そろそろお[illegible]きてうれしい

AKIRA

第36回のみのタイトル・ロゴ。写植のブロードウェーを使用。この回からしばらく英語表記になる。「そろそろあきたので変えようと思っていたのと、前回から第2章に入ったので。この頃アールデコが趣味で、それ風の書体ということで決めました。実際載せてみたらあまり気に入らなかったので、1回しか使いませんでしたが」

AKIRA
OHTOMO KATSUHIRO

第37回〜第48回までのタイトル・ロゴ。作者名も同様の書体で「OHTOMO KATSUHIRO」の英語表記になる。「これもアールデコですが、収まりがこちらの方がいいと思ったので。1920〜1930年代に建てられたニューヨークの摩天楼、アールデコ式のを扉絵にも描いています。そしてこの摩天楼、ネオ東京が破壊されて、第3部「平田ロゴ」になります。さらにOHTOMOからHを抜いたのも第3部から。詳しい理由は忘れましたが、字づらが気に入らなかったのかなあ」

AKIRA
OTOMO KATSUHIRO

第72回〜第120回までのタイトル・ロゴ。作者名も同書体の英語表記に。「最終章である第4部に入り、これだと思っていたものを使いました。単行本ロゴに近い「ＡＫＩＲＡ」本来のイメージだと思います。第94回はこのロゴのバックに、逆さにしたものを濃度を落として入れ、ロシア語みたいにしてみました」なお、第85回は絵柄にある電飾をタイトル・ロゴとして使用している。

AKIRA

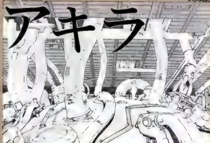
単行本のタイトル・ロゴ。「インパクト」という書体の上部をカットしたもの。堂堂としてシンプルで、アメコミ風のバタくささがあるものとして、単行本全体のフォーマットにあわせて決められた。

アキラ

第1回〜第35回までのタイトル・ロゴ。写植の太教科書体を使用したが、「キ」を大きくするなどボリュームを調整してある。それまでの大友作品の、シンプルなゴチックか明朝体を小さくあしらったものとは一変し、堂々と配置された。「書体は第1回の表紙のイメージにあわせました。アルファベットでもよかったんですが、わかりやすさとインパクトを考えてカタカナに。3文字の配列のバリエーションをやりつくした後、第35回では昔のスタイルのように小さく入れています」なお、第28回は変形レンズで右長斜体にしてある。

アキラ

第49回〜第71回までのタイトル・ロゴ。漫画家平田弘史氏の手によるもので、詳細は別ページに。第49回〜第55回は作者名の代わりに、「KATSUHIRO OTOMO'S」が入り、第56〜第71回は漢字の「大友克洋」に戻る。「書道っぽいロゴにしたかった。小さくまとまったものより、はみでていく勢いのあるものが欲しかったんです。横に置いてみると英語のようにみえるという発見がありまして、第54回はそうしてあります」




## Episode 19-33

***perfect reproduction of the title pages published in Young Magazine***



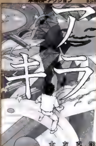












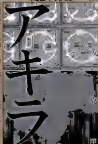


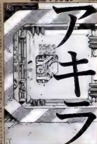


本格SFアクション
第28回
アキラ
大友克洋

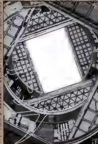

本格SFアクション
第27回
アキラ
大友克洋

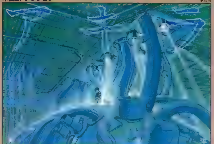

本格SFアクション
第26回
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
第31回
アキラ


本格SFアクション
第30回
アキラ


本格SFアクション
第29回
アキラ


本格SFアクション


本格SFアクション
第32回

# TITLE-PAGE COLLECTION

*Episode 34-48*

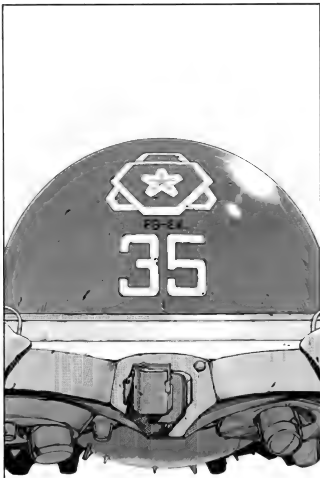




# AKIRA 3

Title page of Episode 034
*Young Magazine* (May 21, '84)

「気候がよくなってきたので、運動でもしようと思っています」

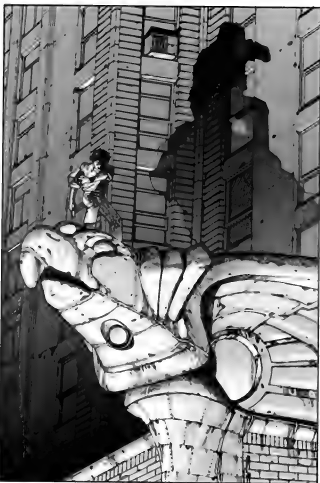



Title page of **Episode 035**
*Young Magazine* (Jun 4,'84)



Title page of **Episode 036**
*Young Magazine* (Jun 18, '84)

「『アキラ』で第8回講談社漫画賞を受賞しました。うれしいです。



Title page of Episode 087
*Young Magazine* (Jul. 2, '84)

「近所のプールで水泳をはじめました。泳いだあとのサウナがなかなかいいです」

Title page of Episode 008

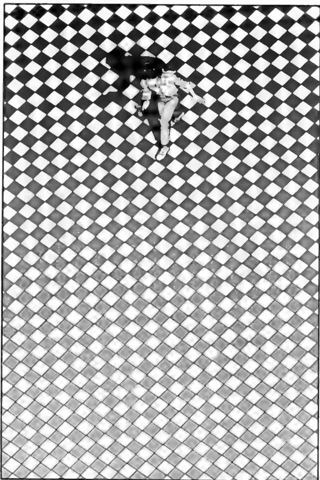
出せそうです。



Title page of **Episode 039**
*Young Magazine* (Aug. 20, '84)

「「ストリート・オブ・ファイヤー」ほか目白押しの夏の映画を見に行きたいな.





**Title page of Episode 041**
*Young Magazine* (Sep. 17, '84)

「暑苦しいだけの夏がおわってよかったですね」

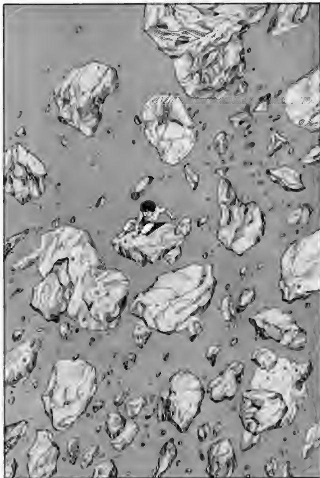
Title page of Episode 042
*Young Magazine* (Oct 1, '84)

● くなってきたので、旅行でもしたいですね」



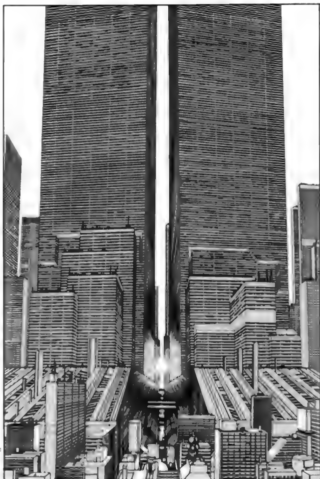
Title page of **Episode 043**
*Young Magazine* (Oct 15 '84)

「涼しくなったので、どこかへ旅行して湯どうふでも食べたいですね」



Title page of **Episode 044**
*Young Magazine* (Nov 5,'84)

「そろそろお正月映画の試写会シーズンなので､今年はたくさん見たいですね｡



Title page of Episode 045
*Young Magazine* (Nov 19,'84)

「市場にカニが出まわってきた
で、うれしいですね。



**Title page of Episode 046**
*Young Magazine* (Dec 3, '84)

「そろそろ冬服の新しいのを買いに 行きたいですね」



**Title page of Episode 047**
*Young Magazine* (Dec 17,'84)

「忘年会のシーズンをむかえ､お酒をひかえようと思っています｡」



**Title page of Episode 048**
*Young Magazine* (Jan. 7, '85)

飲みすぎず、食べすぎず、おだやかな年の瀬、新年を迎えたいと思っています

巨大ドラマ, 新連載! アキラ

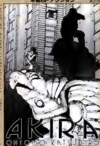
YOUNG

大友克洋

# アキラ

## *Episode 34-48*

***perfect reproduction of the title pages published in Young Magazine***













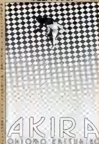




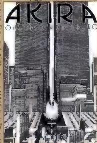


本格SFアクション
第43回
単行本第1巻、即日完売店続出御礼。緊急重版出来中!!
AKIRA
OHTOMO KATSUHIRO

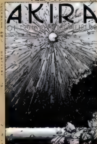

本格SFアクション
第42回
AKIRA
OHTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
第41回
AKIRA
OHTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
第46回
AKIRA


本格SFアクション
第45回
AKIRA


本格SFアクション
第44回
AKIRA
OHTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
第48回
AKIRA


本格SFアクション
第47回
AKIRA
OHTOMO KATSUHIRO

# AKIRA 4

# TITLE-PAGE COLLECTION

**Episode 49-71**



「題字/平田弘史」通称「平田ロゴ」について。

「AKIRA」第3章のタイトルロゴは漫画家、平田弘史(ひらた・ひろし)氏の筆文字である。平田氏は『弓道士魂』『首代引受人』[illegible]などの代表作を持つ時代劇画の巨匠で、大友氏の[illegible]する漫画家の一人。強烈なドラマ性、豪放にして正確な描線とともに、平田劇画の特徴である「おのれー」「うぬー」「[illegible]らー」と思いのたけを叩きつけ[illegible]な描き文字が、第3章のテーマである大[illegible]興亡のパワフルなイメージに合致するので、[illegible]依頼して[illegible]ことになった。
1985年1[illegible]出を快諾。西武新宿線の井荻にあ[illegible]て、筆に墨をふくませ気息を整えられるや[illegible]イヤッとばかりにたちまち数十種類のロゴをものにしてくださった。ここに収録したのはその一部である。「AKIRA」第3章の1回目(第49回)の扉ページを飾っ[illegible]その中から大友氏が選んだ決定稿。「題字/平田弘史」と銘打たれたこのロゴは、江口寿史[illegible]ロディーにしたり、一部で話題を呼んだ。ま[illegible]この時の親交がきっかけとなって、大友氏は後[illegible]田弘史選集』全8巻（日本文芸社刊）のデザ[illegible]手がけることになり、同書には「装幀/[illegible]」とある。

K A T S U H I R O

O T O M O ' S



PART 3



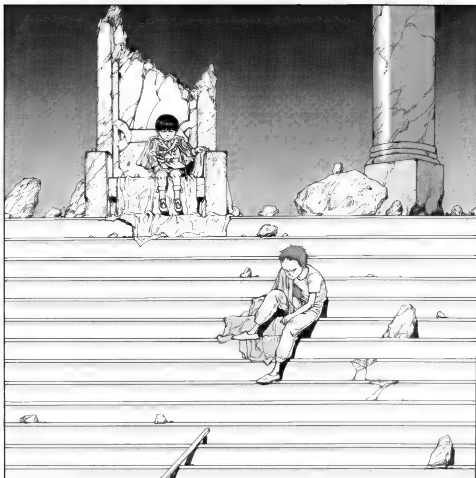
MASH ROOM COMPANY LTD.

題字 平田弘史




Title page of **Episode 049**
*Young Magazine* (Mar 4, '85)

「新しい章が始まったので、がんばります」



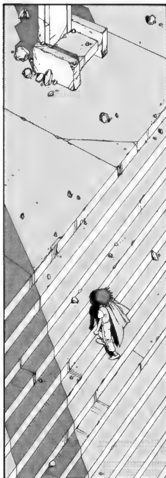
Title page of **Episode 050**
*Young Magazine* (Mar 18 '85)

「3月はお花見が近づいて来てうれしいですね」



Title page of **Episode 051**
*Young Magazine* (Apr 1,'85)

「そろそろ単行本の第2巻まとめに入りたいと思っています」



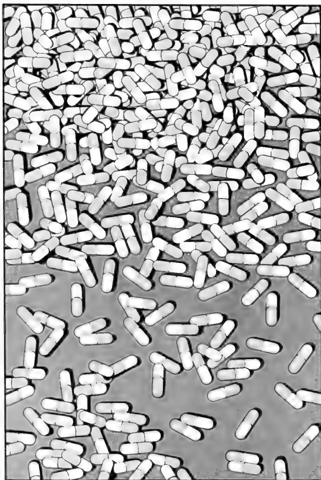
Title page of **Episode 052**
*Young Magazine* (Apr 15, '85)

「春の新しい洋服が欲しいですね」



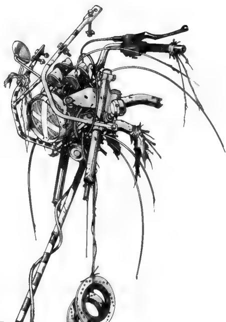
Title page of **Episode 053**
*Young Magazine* (May 6, '85)

「仕事場に猫かきて、植木鉢をひっくりかえしたりして、困っています」



Title page of Episode 054
Young *Magazine* (May 20,'85)

▼陽気がいいので、自転車で遠出でもしたいですね。



**Title page of Episode 055**
*Young Magazine* (Jun. 3, '85)

「アシスタントとの賭けに勝って、大金(?)がころがりこみそうな気配です」



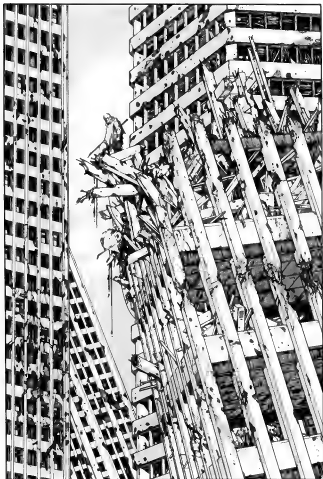
Title page of [illegible]
*Young Magazine* (Jun. 17, '85)

[illegible]にあじさいでも見に行きたいですね」



Title page of Episode 057
*Young Magazine* (Aug. 5,'85)

「梅雨が長いのでうんざりしてます。早くあければいいですね」



Title page of Episode 058
*Young Magazine* (Sep 2 '85)

「メガネがこわれたので新しいのを買おうと思っています」



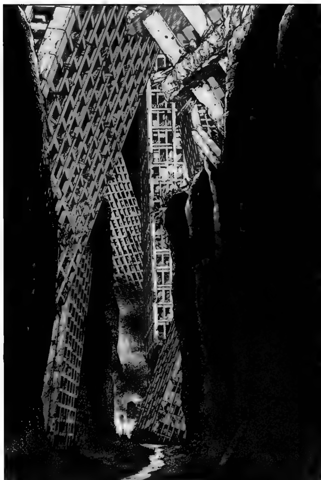
Title page of **Episode 059**
*Young Magazine* (Sep. 16, '85)

「9月4日に『アキラ』の単行本の
第2巻がでますので、よろしく」



Title page of Episode 080
*Young Magazine* (Oct 7, '85)

「知り合いの結婚式に出席します」



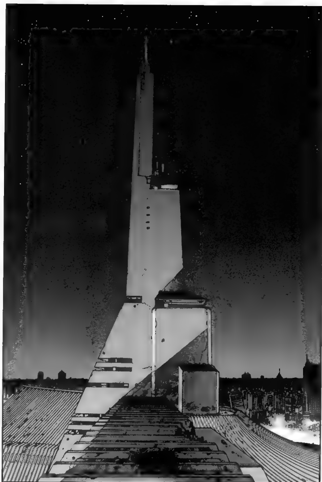
Title page of Episode 061
*Young Magazine* (Nov 4 '85)

「カニのおいしい季節なので、カニ食い旅行でもしたいですね



Title page of Episode 062
*Young Magazine* (Nov 18, '85)

「この間夏だと思ってたのに、もう冬が近いんですね。



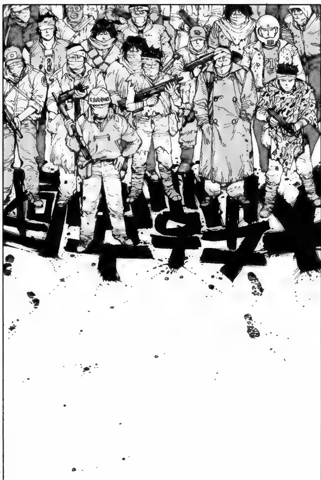
Title page of Episode 063
*Young Magazine* (Dec 2 '85)

◆
「秋の京都を見てきました」



Title page of Episode 064
*Young Magazine* (Dec. 16, '85)

「このごろは[illegible]のお[illegible]りにこっています。」

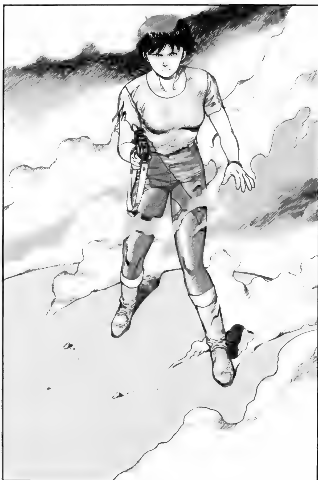


**Title page of Episode 065**
*Young Magazine* (Jan. 6, '86)

「忘年会の季節なので、今年こそ飲みすぎないようにしたいですね」




Title page of Episode 066
*Young Magazine Jan 20 86*



Title page of Episode 067
*Young Magazine* (Feb. 17, '86)

「正月買って、まだ見ていないレーザーディスクがいっぱいあります。見たい！」

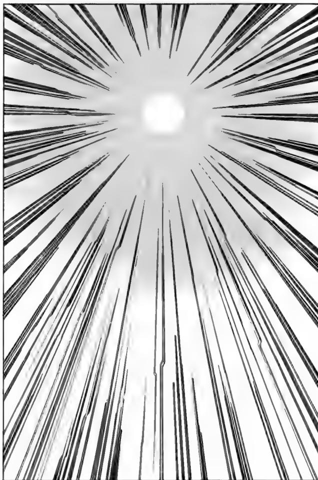


Title page of Episode 068
*Young Magazine* (Mar 3, '88)

「去年からつくっていた[illegible]アニメーションが、そろそろ完成

Title page of Episode 069
*Young Magazine* (Mar 17, '86)

近代美術館の「19世紀ドイツ絵画展」を見に行ってきました。

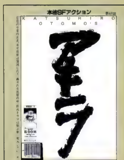


Title page of Episode 078
*Young Magazine* (Apr 7,'86)

「3/31発売のYM.[illegible]増刊
[illegible]イラストを描きました。T
シャツにもなります」

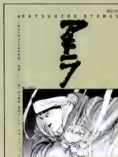


Title page of Episode 071
*Young Magazine* (Apr 21,'86)



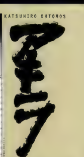

## *Episode 49-71*

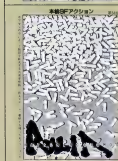
***perfect reproduction of the title pages published in Young Magazine***

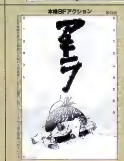


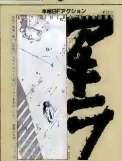




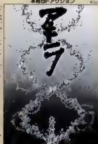



本格SFアクション
第57回
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
第56回
アキラ


本格SFアクション
アキラ


本格SFアクション
第60回
アキラ
大友克洋

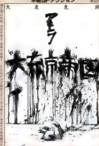

本格SFアクション
第59回
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
第58回
アキラ
大友克洋


本格SFアクション


本格SFアクション
第62回
アキラ


本格SFアクション
アキラ


本格SFアクション
第66回
大友克洋
アキラ
大東京帝国


本格SFアクション
第65回
大友克洋
アキラ


本格SFアクション
第64回
アキラ
大友克洋

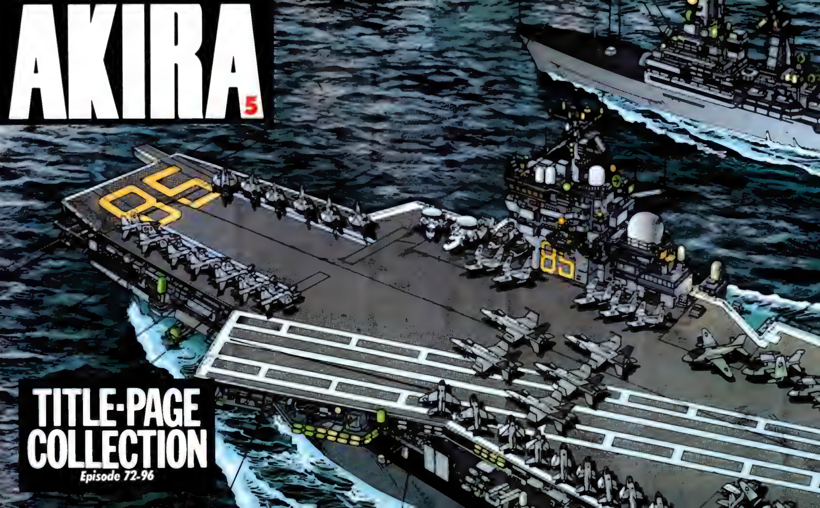

本格SFアクション
第69回
大友克洋
アキラ

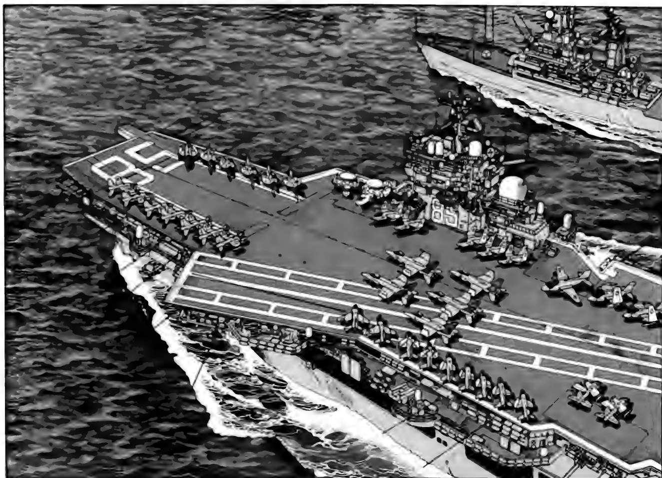

本格SFアクション
第68回
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
第67回
大友克洋
アキラ

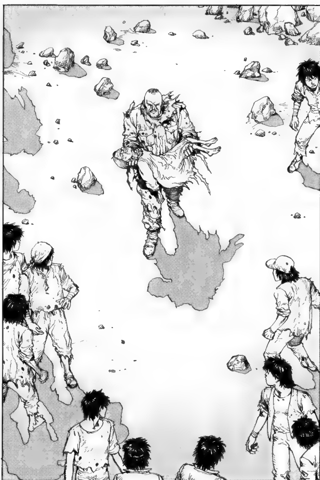

本格SFアクション
第71回
アキラ
大友克洋


本格SFアクション
第70回
アキラ
大友克洋


AKIRA 5
TITLE-PAGE COLLECTION
Episode 72-96




Title page of Episode 072
*Young Magazine* (May 19,'00)



Title page of Episode 073
*Young Magazine* (Jun 16,'86)

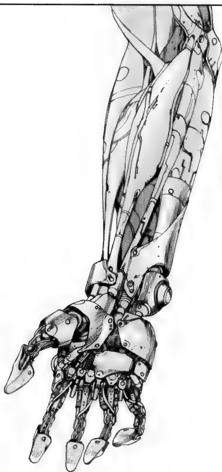
「熱気球に乗ってきました。気持ちよかったです」





Title page of Episode 075
*Young Magazine* (Jul. 21, '86)

「単行本の③巻がもうすぐ出せそうです」



Title page of **Episode 076**
*Young Magazine* (Aug. 4, '86)

「プールに行きたいな、と思っています」



**Title page of Episode 077**
*Young Magazine* (Sep. 15, '86)

単行本の4巻に手をつけよう
かな、と思っています



**Title page of Episode 078**
*Young Magazine* (Oct. 6, '86)

「単行本『A K I R A』3の感想ハガキを毎日読んでいます」



Title page of Episode 079
*Young Magazine* (Nov 3, '86)

「大事にしていたペン先が折れて、また一から育てなおさなければなりません。

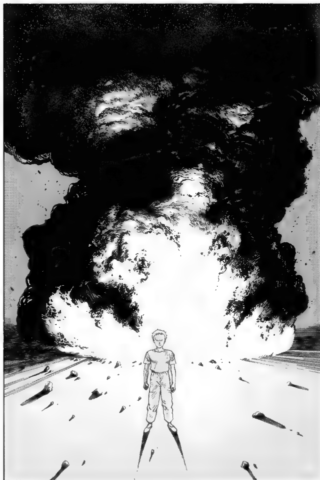


Title page of Episode 000
*Young Magazine* (Nov 17, '86)



Title page of Episode 081
*Young Magazine* (Dec 1 '86)

「ヤンマガの次号の表紙を描きました。



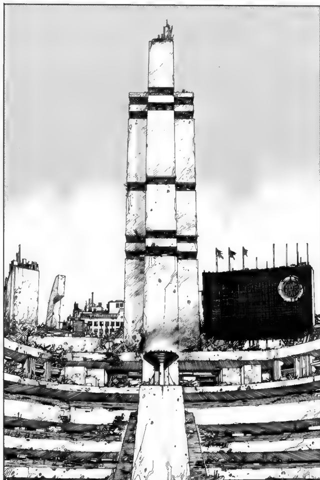
Title page of **Episode 082**
*Young Magazine* (Dec 15, '86)

「今年も一年仕事で暮れようとしています。だれか助けて下さい」



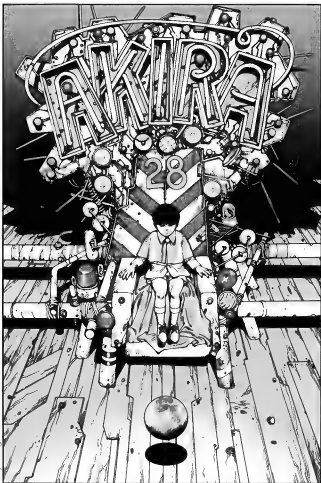
**Title page of Episode 083**
*Young Magazine* (Jan 5,'87)

「今回は天井が五角形のホテルの部屋で仕事をしています」



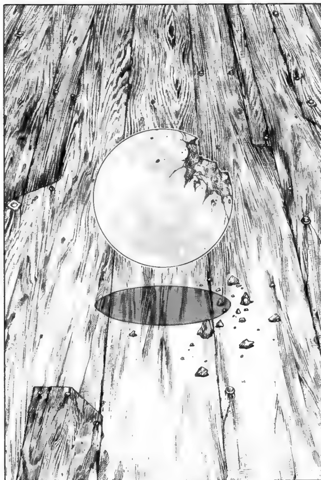
Title page of **Episode 048**
*Young Magazine* (Jan 19, '87)

「いま、胃が痛くてたいへんです」




Title page of Episode 085
*Young Magazine* (Feb. 16, '87)

「胃が痛くてクスリを飲んでいます」



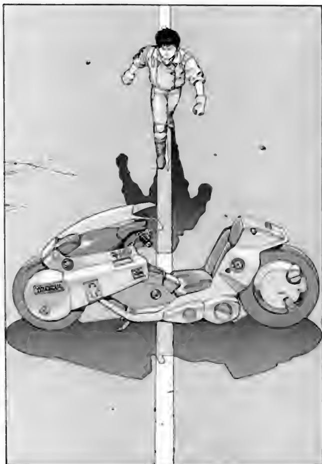
Title page of **Episode 086**
*Young Magazine* (Apr 6, 87)

「アンスタントカタハ」をやめたので、空気のきれいな春を迎えられそうです。



Title page of Episode 087
*Young Magazine* (Apr 20,'87)

「アキラのアニメ映画化準備のため、2か月ほど休ませていただきます」



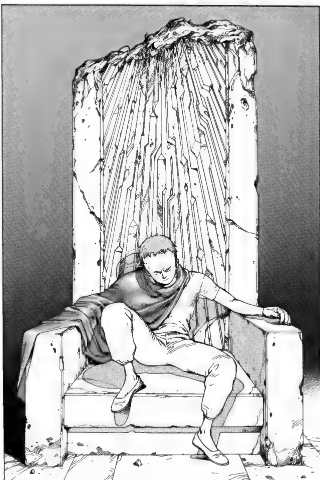
**Title page of Episode 008**
*Young Magazine* (Nov 21,'88)

「また始まりましたのでよろしく」



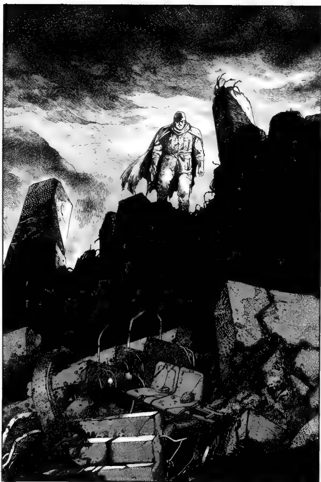
Title page of **Episode 088**
*Young Magazine* (Dec 5, '88)

「片山健の描いた絵本「コッコさんのおみせ」が出たのでうれしいです。



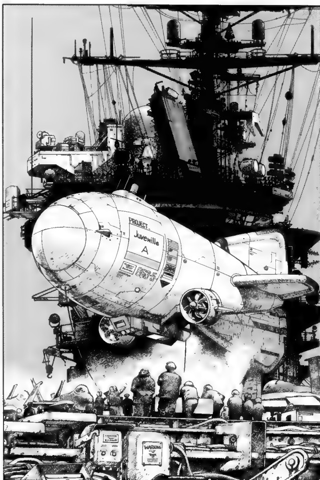
Title page of **Episode 090**
*Young Magazine* (Dec 19, '88)

「久しぶりに渋谷に行って、CDをいっぱい買って来ました」



Title page of Episode 091
*Young Magazine* (Jan 16, '89)

「アニメ「アキラ」英語版作業のため、アメリカ取材旅行に行って来ました。



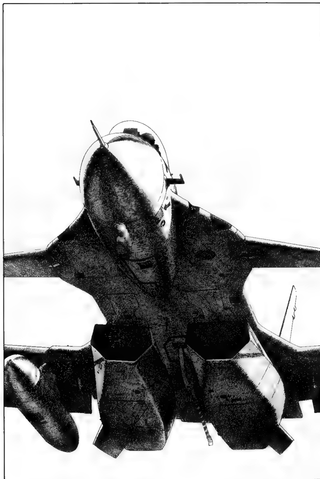

Title page of Episode 092
*Young Magazine* (Feb 6.'89)

「風邪をひいて大変ですけど新年会には行きたいな」



Title page of **Episode 093**
*Young Magazine* (Feb. 20. '89)

「『サムライダー』の単行本がおもしろかった。終わるのが残念です」



Title page of **Episode 094**
*Young Magazine* (Mar 6,'89)

「手塚治虫先生がお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします」



Title page of **Episode 095**
*Young Magazine* (Mar 20,

「バレンタインのチョ
がとうございました。」



**Title page of Episode 008**
*Young Magazine* (Apr 3, '88)

「週刊化記念ポスターを描いてたんで、しんどかったです。




## Episode 72-96

***perfect reproduction of the title pages published in Young Magazine***













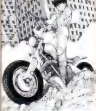


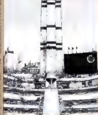




本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
OTOMO KATSUHIRO

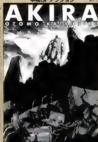

本格SFアクション
第90回
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
第89回
OTOMO KATSUHIRO
AKIRA


本格SFアクション
第88回
一年半の沈黙を破り、巨大ドラマはクライマックスに向かって始動する!!
OTOMO KATSUHIRO
AKIRA


本格SFアクション
第93回
OTOMO KATSUHIRO
AKIRA


本格SFアクション
第92回
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
第96回
OTOMO KATSUHIRO
AKIRA

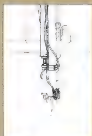

本格SFアクション
第95回
OTOMO KATSUHIRO
AKIRA

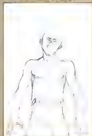

本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO

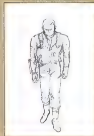
# タイトルページNGコレクション

NG原稿については後で詳しく特集しているが、タイトルページのNGはここに集めてみた。第何回の扉に相当するのかはあえて言わないので、当時の大友氏の心の中(締め切りとアーティスト魂のせめぎあい!)を想像しながら楽しんでください。








# AKIRA 6

# TITLE-PAGE COLLECTION

*Episode 97-120*



Title page of **Episode 097**
*Young Magazine* (May 1,'89)

「今年もお花見に行けなかった」



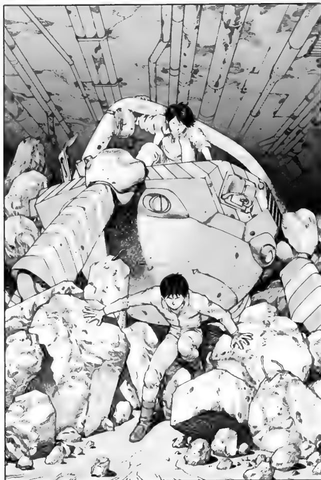

Title page of **Episode 098**
*Young Magazine* (May 22,'89)

「スティーブ・オリフ氏から、ニューエイジミュージックのCDをもらいました。」



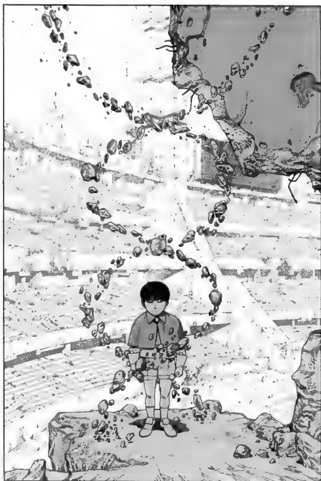
Title page of **Episode 099**
*Young Magazine* (Jun. 5,'89)

「仕事中にながやす巧さんが陣中見舞いに来てくれました。



Title page of Episode 100
*Young Magazine* (Jun 19,'89)

「風邪をひいちゃって大変です。



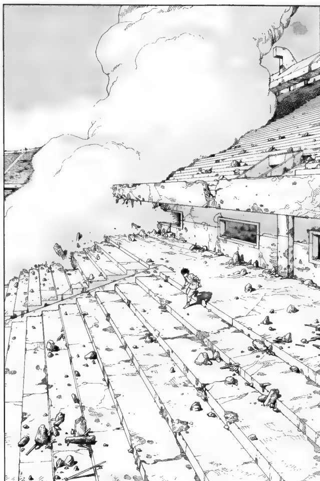
**Title page of Episode 101**
*Young Magazine* (Jul. 3, '89)

「人間ドックの結果で赤点を取ってしまったので、節制をしたいと思います」



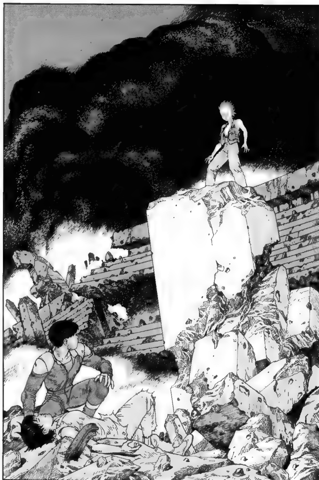
Title page of **Episode 102**
*Young Magazine* (Jul 17,'89)

「諸星大二郎「異界録」が講談社漫画賞をとらなかったのが残念です。



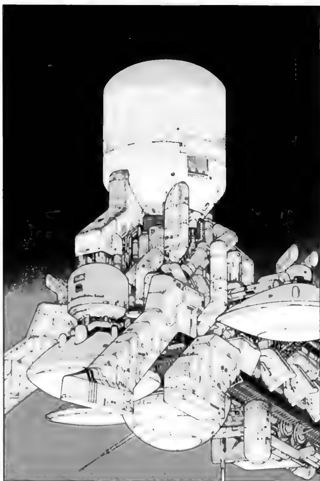
Title page of **Episode 103**
*Young Magazine* (Jul. 31, '89)

「オロナミンCのことを"オロC"と言うのは私だけなんでしょうか？」



Title page of **Episode 104**
*Young Magazine* (Aug. 21, '89)

「イラスト集の送稿がすべて終わりました。あとは出来上がりを待つばかり！」



Title page of Episode 105
*Young Magazine* (Sep 4, 89)



Title page of **Episode 106**
*Young Magazine* (Sep. 18, '89)

「吉祥寺の歌声喫茶『ともしび』
がなくなるのが寂しいです」



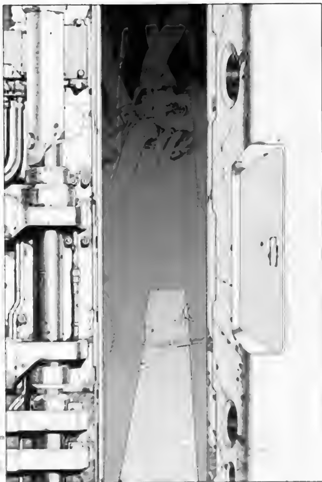
**Title page of Episode 107**
*Young Magazine* (Oct. 30, '89)

「隣の田中さんから甘柿の木をいただくことになって、うれしいです。



Title page of **Episode 188**
*Young Magazine* (Nov 13,'89)

「風邪でスタッフがみんな倒れてしまっ!



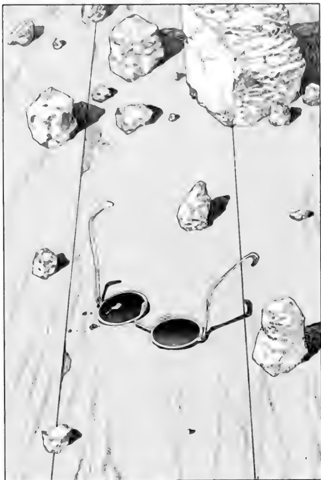
Title page of Episode 109
*Young Magazine* (Nov 27,'89)

今年の日本



Title page of Episode 110
*Young Magazine* (Dec 11, '89)

がないので帰り、ＴＶのベルリンのニュースに感動して落ち葉を集め、イモを焼いた。



**Title page of Episode 111**
*Young Magazine*
(Jan. 8・14, '90)

「アニメ『ＡＫＩＲＡ』の制作事務をしていた信本さんがフジテレビのヤングシナリオ大賞を受賞したので賞金でおごってほしい」



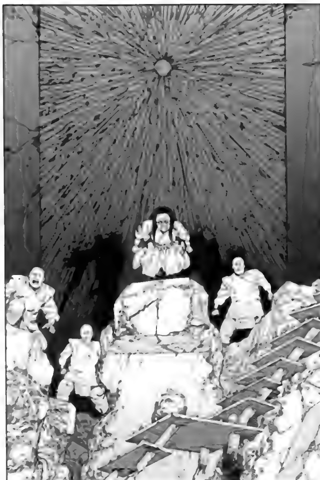
**Title page of Episode 112**
*Young Magazine* (Jan. 22, '90)

「今年は果たして休めるのだろうか？」



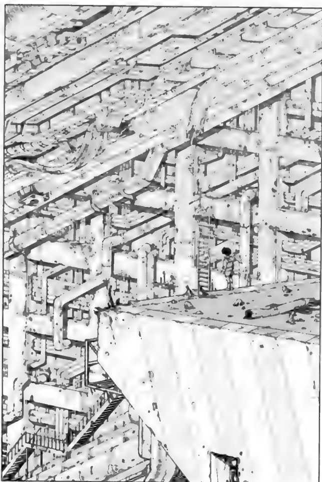
Title page of Episode 113
*Young Magazine* (Feb. 5, '90)

「原作と脚本を書いたオリジナ
ルアニメビデオを制作中です



Title page of Episode 114
*Young Magazine* (Feb. 19, '90)

「ついこの間までひどい偏頭痛に悩まされていました。」



Title page of Episode 115
Young Magazine Mar 5 '90




Title page of Episode 116
*Young Magazine* (Apr 2,'90)

「仕事場のＣＤプレーヤーが酷使しすぎてバカになった」



**Title page of Episode 117**
*Young Magazine* (May 21,'90)

「フランスのコミックフェアに行っていたため、ずいぶん休んでしまって申し訳ありませんでした」



**Title page of Episode 118**
*Young Magazine* (May 28, '90)

「ヌスラット・ファテ・アリ・ハーンを聴に行って来ました
非常に良かった」



Title page of **Episode 119**
*Young Magazine* (Jun 11,'90)

「それじゃ、また」



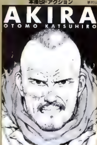
Title page of **Episode 120**
*Young Magazine* (Jun 25,'90)

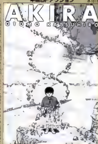
「ということで、また」

# *Episode 97-120*

***perfect reproduction of the title pages published in Young Magazine***







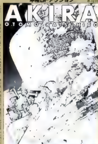


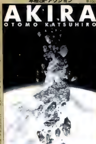




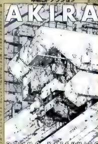






本格SFアクション
第107回
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO

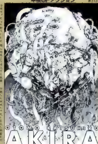

本格SFアクション
第106回
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
第105回
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
第110回
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
第109回
OTOMO KATSUHIRO
AKIRA


本格SFアクション
第108回
OTOMO KATSUHIRO
AKIRA


本格SFアクション
第113回
OTOMO KATSUHIRO
AKIRA


本格SFアクション
第112回
OTOMO KATSUHIRO
AKIRA


本格SFアクション
第111回
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
OTOMO KATSUHIRO
AKIRA


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO


本格SFアクション
AKIRA
OTOMO KATSUHIRO

# MEMORIAL GALLERY




*poster, leaflet, goods, and others*

の 黙 示 録

*the Apocalypse*

アキラノメザメハチカヅイタ。

連載1周年直前特別カラー

# AKIRA

アキラ/K・OHTOMO

第3次世界大戦後のネオ東京にくり広げられる
本格SFアクション 地下深く眠りつづける
アキラとは、はたして何者なのか?アキラが
目覚めると いったい何が起こるのか
マはいよいよ漫画史上かつて
た巨大な核心へと
進んでゆく



ヤングマガジン

# YOUNG

Magazine



ヤングマガジン'83年11月21日号の電車中吊りポスター。メタルペーパー使用。

★毎月第1・第3月曜日発売 ★定価200円 講談社




★No.22　11月21日号　★ドラマチックに発売中！

NOW AKIRA IS WAKING UP!

NEO SUPER ACTION

“アキラ”

PRODUCED by
KATSUHIRO
OHTOMO

YOUNG

ヤングマガジン '83年５月２日号の電車中吊りポスター。
イラストは第４回、第６回、第８回の扉絵を組み合わせたもの。

100万Vのアキラショックだぜ!

AKIRA

大友克洋

YOUNG

★No.18 ★10月1日号 ★毎月第1·第3月曜日発売 ★新連載して発売中/ ★定価200円

ヤングマガジン '84年10月１日号の電車中吊りポスター。
イラストは単行本１巻67ページのカットに着色したもの。

第三次大戦カラ三十年
復興シツツアル日本ニ
オソルベキ少年アキラ
ガメザメタ――――

本年度最終最大のSFアクション・スーパー新連載

「アキラ」

二十世紀最後の奇才

大友克洋

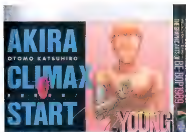
ヤングマガジン

YOUNG

Magazine

アメリカ
プレゼント
定価200円
講談社

「ＡＫＩＲＡ」新連載を告知するヤングマガジン '82年12月20日号の電車中吊りポスター。
同号の表紙用イラストを流用。ただし表紙はこの絵にモザイク処理を施している。




ヤングマガジン '88年11月21日号の電車中吊りポスター。
同号の表紙用イラストを流用。




ヤングマガジン '86年12月15日号の電車中吊りポスター。
同号の表紙用イラストを流用。

単行本4巻の書店用陳列ビラ。




単行本3巻の書店用陳列ビラ。

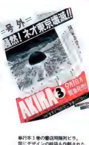



単行本2巻の書店用陳列ビラ。




単行本1巻の書店用陳列ビラ（通称・チンビラ）。



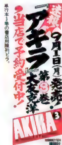




単行本3巻の書店用陳列ビラ。
同じデザインの紙袋も作製された。

単行本4巻の書店用陳列ビラ。




単行本3巻の書店用陳列ビラ。




ヤングマガジン'83年11月21日号の書店用陳列ビラ。




「AKIRA」関連書籍の書店用陳列ビラ。





遅れることの多かった大友作品が予定通り出ることをアピールする写真予告。



ヤングマガジン 84年 9 月 3 日号に掲載された単行本 1 巻の発売予告記事



ヤングマガジン '85年 9 月16日号に掲載された単行本 2 巻の発売予告記事



ヤングマガジン '85年 9 月 2 日号に掲載された単行本 2 巻の発売予告記事



ヤングマガジン 84年10月 1 日号に掲載された単行本 1 巻の発売予告記事



ヤングマガジン '93年 4 月12日号に掲載された単行本 6 巻の広告記事。



ヤングマガジン '93年 2 月15日号に掲載された単行本 6 巻の発売予告記事。



ヤングマガジン '91年 1 月 1 ・ 7 日合併号に掲載された単行本 5 巻の発売予告記事。

A.D.2020, We Need New Crisis Scene of Neo-Tokyo by AKIRA!

歓声、止まず。







OTOMO KATSUHIRO

AKIRA

まとめて読もう！
①—③で、もうすぐ1000ページ





PART1 鉄雄
定価1000円





PART2 アキラI



PART3
アキラII



9月1日(月)発売！

■書店予約受付開始!!

SPECIAL PRICE 880yen 講談社

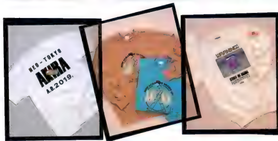
- 巻頭カラー8P
- 発売記念Tシャツ&ポスター1500人プレゼント！

AKIRA

ヤングマガジン86年9月1日号に掲載された単行本Ⅲ巻の発売予告記事。東京競馬場の協力で実際にターフビジョンに映してもらった。が、鮮度不足で、合成写真となる。


AKIRA
AKIRA
AKIRA




数ある「ＡＫＩＲＡ」グッズの中でも、最も多く製作されたのはＴシャツ・トレーナー類であった。「アキラＴシャツは今でも愛用しています。上の単行本表紙を使ったＴシャツは、３巻のものからにじみがなくなって、すごくいい色が出るようになりました。でも読者プレゼント用Ｔシャツは街では見かけませんね。みんな着ないで保存しているんでしょうか。結構よく見かけるのは海賊版Ｔシャツです。吉祥寺や新宿のテクノバーで若い人が着ているのを見ると、「ヘー」という感じがします。それから、ロサンゼルスでスティーブ・オリフさんに会った時、彼が読者プレゼント用Ｔシャツを着ているのには驚きました。どこで入手したんだろ？」









ヤングマガジン'89年１月16日号の読者プレゼント用には「ＡＫＩＲＡ」アートバッグが製作された。限定150個のヤングマガジン週刊化記念グッズ。上のラフデザインは大友氏の手による。決定デザインは左の写真参照。



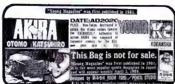












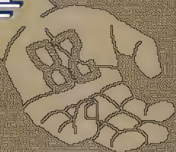

ヤングマガジン'89年６月26日号の読者プレゼント用に「ＡＫＩＲＡ」アーミーキャップが製作された。限定200個の創刊９周年記念グッズ。デザインも担当した大友氏は「つらい原稿描きの間にやるデザインの仕事は楽しかった」。決定デザインは左の写真参照。



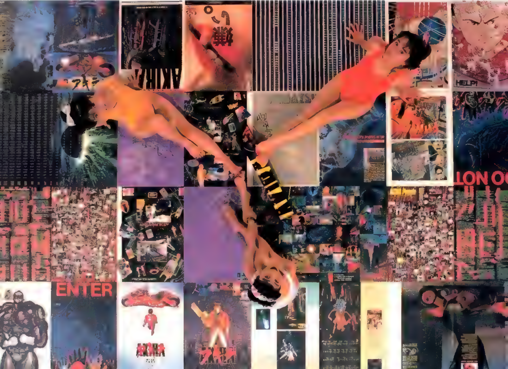



アートバッグのサイズは400mm×421mm。
「キャラクターグッズにはしたくありませんでした。みんなで実際に使えるようなバッグにしたかったんです」

「僕は頭が大きいのですが、後ろがゴムになっているフリーサイズなので、ちゃんと入りました。でも似合いません。やっぱり帽子は顔の小さい人が似合うなー、と思いました」




'88年7月8日発行「POSTER&GRAPHIC　AKIRA」に収録された超難解迷路。文字が隠されているので、挑戦してみてください。パズル制作はニコリ。

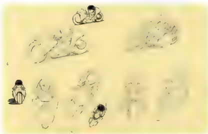



「POSTER&GRAPHIC AKIRA」の予告記事用写真。長さ73cmのケースに入った大型本で、通称を"デカ本"といっていた。右の迷路の他、原寸大劇場用ポスター4点、2種・1年カレンダー、鉄雄ジグソーパズル、アニメシナリオ、大友氏のロングインタビューなどを収録



単行本５巻のカバー裏のために制作されたオリジナル熊手。全長180cm、総費用約200万円。大友氏が描いたラフを基に、ミヤコ人形を赤星ゆかり氏、メカモデルを小沢勝三氏が作製。浅草松下商店の協力によって完成した。

ヤングマガジンの読者プレゼント用に企画された「チョロQ」。下は大友氏によるラフ。予算の問題で実現には至らなかった。





鉄雄フィギュア。全高164mm。アメリカ製で、アメリカでのみ販売されている。



1　35スケール全長99mmの金田バイク。バンダイ製品。金田のミニチュア運転免許証も入った凝った作り。



アニメの宣伝用展示物として製作された原寸大金田バイク。キャンペーンでイギリスに渡ったまま行方不明に。現在はイギリスのマニアが保持しているという説もある。






AUTHENTIC SF ACTION!

OTOMO KATSUHIRO
AKIRA 5
12·11 ON SALE
SPECIAL PRICE
1,100YEN
KODANSHA





単行本４巻のカバー裏のために制作されたオリジナル・ピンボールマシン。㈱タイトーが提供してくれたマシンに、大友氏がアニメのセル画を切り張りして完成した。また、上の写真に出ているのは大友氏の左腕。自らが入れ墨を描いたものである。




ヤングマガジン '87年１月５日号の読者プレゼント用に「ＡＫＩＲＡ」タペストリーが制作された。限定60枚のプレゼントで、現在はプレミアム価格２万円という噂もある。




アニメ映画用・前売券付きテレホンカード。




ヤングマガジン読者プレゼント用テレホンカード。




▲「国際版ＡＫＩＲＡ」の読者プレゼント用テレホンカード。




ヤングマガジン読者プレゼント用テレホンカード。




アニメ映画宣伝用テレホンカード。

AKIRA

1000 & ADD BONUS

20,000

5X
4X
3X
2X

SPECIAL

9000
7000
5000
3000
1000

10,000
8000
2000

5000
&
BONUS

5000
&
BONUS

Young Magazine

FLIPPER BUTTONS




映画の劇場案内板。撮影地はアメリカのアトランタ。




フランス語版「ＡＫＩＲＡ」の広告塔。撮影地はコミック・コンベンションが開催されたグルノーブル市。出版元のグレナ社は数10ヵ所に掲示するほどの力の入れようだった。




アメリカでのアニメ公開を記念して、ニューヨーク上空でヤングマガジン表紙ロケを敢行した。自由の女神の横を飛ぶヘリコプターが表紙を飾ったのは'90年12月10日号だった。

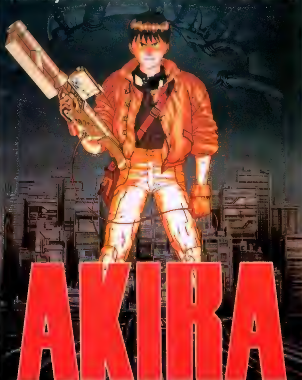


ヤングマガジン'88年12月19日号のグラビア撮影風景。ニューヨーク・ブロンクスでのロケはボディーガード付きで敢行された。




アメリカ版「AKIRA」の宣伝ポスター。出版元はマーベル社。撮影地はニューヨーク・ブロードウェー。


A K I R A




アメリカでの映画公開時に作製されたポスター。




グレナ社が作製したポスター。「暴力的で、美しい」というキャッチコピーが冠されている。




グレナ社が作製した宣伝用垂れ幕。全長4m以上。




インドネシア語版の宣伝ポスター




英語版「AKIRA」の読者プレゼント用ポスター。




講談社コミックの英語パンフレット。海外出版社への版権販売に使用された。

38 YEARS AFTER WORLD WAR III...

# AKIRA



BY KATSUHIRO OTOMO

ENGLISH LANGUAGE ADAPTATION BY JO DUFFY • COLORED BY STEVE OLIFF
FULL COLOR/64 PAGE/BOOKSHELF FORMAT SERIES • MONTHLY FROM EPIC® COMICS

アメリカ版刊行開始時のマーベル社製ポスター。創刊時にはラジオ広告もうたれた。

# AKIRA










## アメリカ版「AKIRA」について　黒丸 尚

PROFILE

[illegible] 1951年東京生まれ [illegible] 主な訳書『ニューロマンサー』[illegible]スン、『時空の支配者』『空を飛んだ少年』[illegible]れら扉を運ふとき』『砂のなかの蛾』ゼラズニイ[illegible]93年逝去。ご冥福をお祈りします。

[illegible]

[illegible]るようにな[illegible]わけです。[illegible]けをとらないとなると、そう[illegible]があるわけではなく、第一番[illegible]発洋でした。でも、悲しいか[illegible]クの日本書店には当時、大友[illegible]いてないもので、プロの間で[illegible]だまだでした。

その[illegible]変したのが、『アキラ』の単行[illegible]ニューヨーク在住のマンガ家[illegible]店に駆けつけて、買ったとい[illegible]人間が、あれを買ったのはア[illegible]ばかりではなかろうか、と笑[illegible]ロ・オートモが有名になった

[illegible]カン・コミックスの国際化と[illegible]ましたが、何の誇張でもなく、[illegible]はフランスと日本にある、と[illegible]そうだろうとは思っていたの[illegible]『SPIN』誌（というのは[illegible]タイルを中心にした新興若者[illegible]クス特集で、業界の人間がそ[illegible]から、まず間違いありますま

[illegible]このアメリカ版『アキラ』、[illegible]いグラフイック・ノヴェルの[illegible]ています。印刷といい、製本[illegible]コミックスに比べれば格段に[illegible]す。内容に見合った扱いと言[illegible]

[illegible]アメリカで受け容れられ、逆に日本[illegible]リカン・コミックスとして受[illegible]ら、最高だ、と思います。

# MAKING FOREIGN EDITIONS OF *AKIRA*

国際版の出版によって、世界中で熱狂的支持を受けた「AKIRA」。その国際版を制作するためには、様々な関門をクリアしなければならなかった。第一の大きな関門は右起こしの日本語版をアルファベット対応の左起こしにすること。原稿を左右逆版にするだけでなく、描き文字やふきだしを取り除いた部分に新たに背景を描くなど、大友氏の大幅な加筆修正の必要があった。第二の大きな関門は当時の欧米コミックがオールカラーを基本にしていたということ。コンピューターカラーリストであるスティーブ・オリフ氏に「AKIRA」のカラーイメージを伝えるために、大友氏が描いたマーカー画は相当な数に上る。他にも、翻訳時に生じる英語と日本語のニュアンスの違いなどをクリアしつつ、国際版の制作は進められた。一例として単行本1巻88ページを並べてみた。国際版「AKIRA」の制作過程を追体験していただけるだろう。

大友氏のカラー見本。左の完成原稿が見本に忠実にカラーリングされているのがわかる。

単行本1巻234ページの1コマ目。左右逆版にしても、大佐のスーツが左前になるように、スーツすべてを描き直している。

単行本1巻160ページの4コマ目。日本語の描き文字を消し、ふきだしの形をアルファベット対応にするためには、背景をすべて消す必要があった。

単行本2巻298ページの5コマ目。左の手と見比べてほしい。

## THE INTERNATIONAL *AKIRA*: 1988-1994

1988年　アメリカMARVEL(EPIC)COMICS社、コミックブック版（B5版ソフトカバー、オールカラー64ページで全38巻）刊行開始。

1990年　フランスGLENAT社、イタリアGLENAT社、スペインEDICIONES B社、ブラジルGLOBO社、キオスク版（A4版ソフトカバー、オールカラー64ページで全38巻）刊行開始。

1991年　ドイツCARLSEN社、（B5版ハードカバー、オールカラー128ページで全19巻）刊行開始。
インドネシアELEX MEDIA KOMPUTINDO社、（B6版ソフトカバー、モノクロ192ページで全13巻）刊行開始。
アメリカMARVEL(EPIC)COMICS社、アルバム版（B5版ソフトカバー、オールカラー192ページで全13巻）刊行開始。
フランスGLENAT社、ブックストア版（A4版ハードカバー、オールカラー192ページで全13巻）刊行開始。
アメリカGRAPHITTI DESIGNS社、愛蔵豪華限定版（B5版ハードカバー、オールカラー全6巻）刊行開始。

1992年　フランスLOISIRS社、ブッククラブ版（A4版ハードカバー、オールカラー192ページで全13巻）をカタログ販売開始。
イタリアGLENAT社、スペインEDICIONES B社、アルバム版（A4版ハードカバー、オールカラー192ページで全13巻）刊行開始。

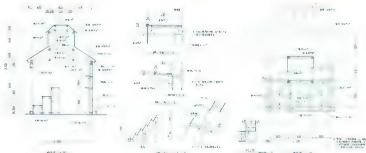
1993年　台湾　東立出版社、（B5版ソフトカバー、モノクロ全6巻）刊行開始。

1994年　イギリス[illegible]社、（B5版ソフトカバー、オールカラー全6巻）刊行開始。

他に海賊版が数ヵ国確認されている。契約した各国の単行本総部数を合計すると約500万部に達する見込み。'95年現在も出版申し込みは相次いでおり、フィンランド、オランダ、ポルトガル、アルゼンチン、タイなどの出版社と交渉中である。

単行本6巻のカバー裏のために「ＡＫＩＲＡ」キオスクが建てられることになった。これはその最初のイメージである。(参考文献「世界のキオスク」ＴＯＴＯ出版)



上のイメージスケッチを設計士が正確な設計図におこしたが(上の設計図)、それでは予算オーバーすることが判明。次に、日活撮影所の大道具係に予算内で建てられるような設計図を依頼した。それを基にスドーアート工房の協力により、講談社内のスタジオに「ＡＫＩＲＡ」キオスクは建てられた。

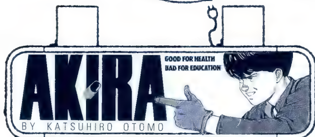



キオスクに設置した蛍光看板２種類。上のものは直径50cm、下のものは長さ140cm。実際に光るように作られたが、トリミングの都合で、単行本のカバー裏には写っていない。





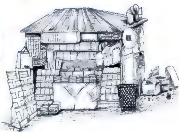









設営・撮影には３日を要した。その間スタジオには見学者があいつぎ、大友氏は記念撮影に追われた。右は完成予想図であるが、関係者の創意工夫の結果、予定を上回る猥雑さが醸しだされた。ニューススタンドに入っている新聞は手製（「大友克洋クラゲに刺される」という見出しもある）。左奥にある業務用冷蔵庫の缶類にはすべて「ＡＫＩＲＡ」ブランドのラベルがはってある。鉄製ゴミ箱は講談社近辺の廃材置き場から調達された。





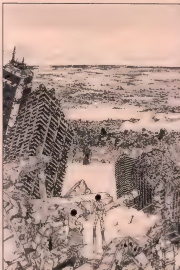
AKIRA
BY KATSUHIRO OTOMO
AKIRA RISING
VOICE
Business Post
Katsuhiro Otomo stung by jellyfish!
Herald
Tribune
AKIRA'S RAIN
THE SOHO WEEKLY NEWS
Phenomenal! An instant classic!
AKIRA in power
AKIRA AKIRA AKIRA AKIRA AKIRA AKIRA
AKIRA A.D. 2019 NEO-TOKYO
AKIRA PRODUCED AND DIRECTED
アキラ


NEO-TOKYO
A.D.2019

THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!

# UNPUBLISHED WORKS

***Why did they get killed?***



単行本６巻の399ページ。



ヤングマガジン'90年6月25日号に掲載された最終回最終ページ



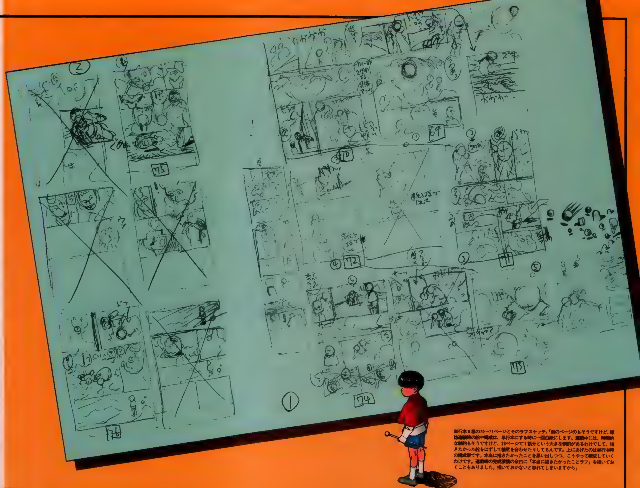
単行本用に描き直す際にNGになったもの。２枚の絵を別々に描き、組み合わせて使用する予定だった。「描きたい瓦礫がいっぱいあったんです。参考資料として瓦礫が写っている写真集も集めてましたし。ああ、これはいい瓦礫だ！っていう写真が１枚でもあると、つい買ってしまうんです。特に、混み入ったタイプが好きで、描き込みすぎの原因にもなっていました」

## 大友氏の机の中には数多くのNG原稿が眠っている。

「ＡＫＩＲＡ」のＮＧ原稿集！大友氏の机の中で眠っていたものを引っ張り出してきた。ヤングマガジンが週刊になったのに隔週でしか掲載していないとか、単行本がなかなか出ないとか、大友氏の遅筆に対する非難は数多く受けたが、これでその原因が少しはわかっていただけるのではないかと思う。ＮＧの種類は大きく分けて二つ。①雑誌にも出なかったボツ、②雑誌には載ったが単行本には載せなかったボツ。多いのは②のパターン。上の絵も②のパターンでボツになったものだ。「単行本の絵と見比べていただければわかると思いますが、雑誌掲載時のものは建物の壊し方が甘いです。これは時間的制約で充分に手を入れられなかったからですが、単行本にするにあたって、ここぞとばかりに描くと、左ページのようなＮＧも生まれてしまう。描き込みすぎて、解放感がない絵やバランスの崩れた絵になってしまうんです」







単行本6巻の70〜77ページとそのラフスケッチ。「前のページのもそうですけど、雑誌連載時の絵や構成は、単行本にする時に一回白紙にします。連載中には、時間的な制約もそうですけど、20ページで1話分という大きな制約があるわけでして、描きたかった絵をはずして帳尻を合わせたりしてるんです。上にあげたのは単行本時の構成案です。本当に描きたかったことを思い出しつつ、こうやって構成していくわけです。連載時の完成原稿の余白に「本当に描きたかったことラフ」を描いておくこともありました。描いておかないと忘れてしまいますから」



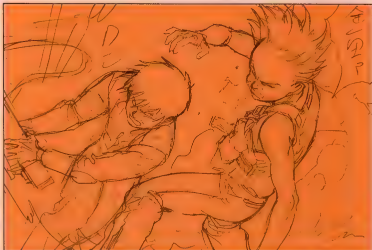




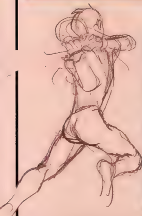

単行本のために構成し直す時、原稿は大友氏の手によって切り刻まれる。この原稿も大胆に切り刻まれ、大友氏の手元に保管されていたもの。連載第104回14〜15ページにあたる。

## 最多NG発生。殴るシーンは難しい。

金田が鉄雄を殴るシーンはものすごく悩みました。主人公たちが素手で戦う場面があまりないので、印象的なシーンにしたかったんです。雑誌連載時も上のようにずいぶん練習してデッサンして描いたけど、出来上がった雑誌を見ると気にくわない。で、また、単行本で直しています。それにしても、「殴る」シーンは難しいです。殴る前、殴る瞬間、殴った後、それぞれ力の入り方が違うし、またアングルも様々なものがあり、どれが一番サマになるかは、デッサンしてみないとわからないんです。カッコよすぎても駄目だし、コマのリズムの変化もつけたい、なんて思いが交錯して、いや本当にこのシーンは苦労しました。



上は単行本用に描き直す際に発生したＮＧ原稿。結局、単行本では下のような絵と構成になっている。単行本６巻の132～133ページにあたる。





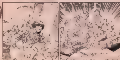


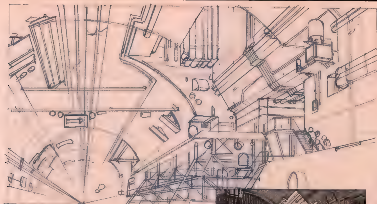










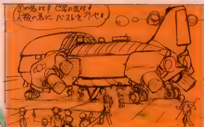


右は単行本２巻の174ページ。上はそのＮＧ下描き。「下描きしていたら、基地が大きくなりすぎてしまいました。なんだか、大秘密基地みたいになってしまって‥‥。もっと現実的な基地にしたかったので描き直しました」



上は単行本３巻の244ページ。下はそのＮＧ下描き。「コマの中に人物の周りの円を収めたかったんです。下描きしていたら、人物が大きくなりすぎてしまいまして‥‥。惜しいかなＮＧです」









右は単行本2巻の261ページ。上はそのＮＧ下描き。「上のやつもヘリプコターのつもりなんです。でも、これじゃ飛びそうにない。あまりにもＳＦ的になったことを反省しながら、リアルなヘリコプターに描き変えました」

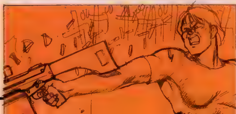





## 衝撃の事実！チヨコはオジサンだった。

チヨコは当初の設定ではオジサンだったんです。ケイたちの組織に連絡員が必要だったので、普通に考えて、オジサンにしたんです。その下描きが右にあげたものだけど、普通すぎて、ちょっとつまらない。で、オバサン。しかも、でっかいオバサン！　小さなオジサンよりずっと存在感が出てくれました。そして描いていくうちに、どんどんチヨコが好きになってきまして、思ったよりはるかに重要な役になってしまいました。しかも、この頃ねらってた、ＳＦの中の日本ぽい世界、みかん箱だとかコタツだとかが存在するＳＦっていうものにピッタリはまってくれたんです





上は単行本４巻の148ページ。右はそのＮＧ下描き。「ロングショットというのは状況を説明するには最適なんですが、どうも緊張感に欠けてしまいます。状況がわからなくてもいけないし、緊張感がなくてもいけない。ロングとアップのバランスにはいつも細心の注意を払ってました。また、構図に密度を出すために、描き文字で画面を埋めることもしています」

左は単行本６巻の69ページ。上はそのNG下描き。「爆発の力というか、鉄雄の持つ狂った力というか、そんなものを表現したくて、描き直したんだと思います。でも単純に描きなおしたやつの方がカッコいいでしょ。こういうシーンはカッコいい絵が浮かぶか浮かばないかが勝負です」

右は単行本５巻の343ページ。上はそのNG下描き。「鉄雄がコードの中から現れるシーンです。でも、上のNGは、現れるっていうより、コードに飲み込まれてるというか、コードの中でもがいているというか、鉄雄が苦しんでるようにしか見えません。で、描き直したわけです」

下は単行本２巻の300ページ。右はそのNG下描き。「NGはローアングル。ローアングルだと読者の視線は鉄雄の顔に行きます。このシーンでは、壊れた腕に読者の視線を集めたかったので横向きにしました。また、表情の一部だけ見せた方が緊張感が出ると判断しました」

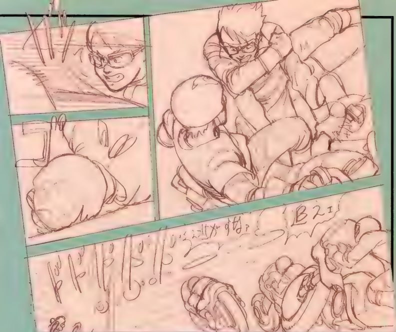
## 実は鉄雄と金田は『鉄人28号』にモデルがいます。

鉄雄について一言。実は、鉄雄という名前は横山光輝さんが描いた『鉄人28号』からいただいています。鉄人を作った敷島博士の息子の名前が鉄雄っていうんです。金田の名前も鉄人を操縦する金田正太郎くんからいただいています。まあ、話自体も「戦争中の秘密開発兵器をよみがえらせる」という基本コンセプトをいただいているわけで「AKIRA」のネタ本は『鉄人28号』と言っても過言じゃないくらいです。

◀金田正太郎

◀敷島鉄雄

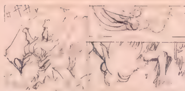
左は雑誌連載時第99話の12ページ。上は単行本6巻の54ページ。「雑誌掲載のものを単行本に描き直したものです。別に性器を描きたかったわけじゃありません。化け物の鉄雄から正気の鉄雄に戻ってきたところです。横向きだとシーンが続くイメージがあります。流れをいったんおさめるには正面の構図にした方がいいと思いました」



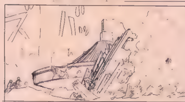
## 迫力のバイクシーン。スピードとテンポが構図と締め切りに優先した。

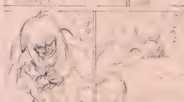
単行本１巻の130ページあたり。バイクシーンです。上の下描きは連載中のものですね。これは構図的にも気に入っていて、しっかりと下描きしたにもかかわらず、NGにしました。しかも締め切りギリギリだったというのに……。このままだと、いったんバイクから降りて戦っている感じがするでしょう。このシーンは、登場人物がちゃんとバイクに乗ったまま、バトルしているようにみせたかったんです。そのために、ロングショットにして、二つのアクションをひとつの構図に入れて、できるだけ時間が止まらないよう意識して描き直しました。右にあげたのが直したものです。バイクにのったままバトルしているよう見えませんか。スピードとテンポ、それがバイクシーンの命。カッコつけて、そう言っておきましょう。

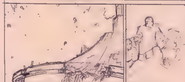






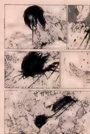








下は単行本6巻の311～314ページ、上は雑誌掲載時のNG下描き。「ミヤコのラストシーンですね。2ページで下描きしてみたんですけど、どうもあっさりしすぎてしまって4ページに描き直しています。おばあちゃんもがんばってるんだよ、というメッセージを伝えたかったんです。そのために、間をゆったりととったりして、死ぬまでに時間をかけました。ミヤコのサカキに対する想いも出したかった。まあ、このラストシーンならミヤコも満足して往生してくれるのではないでしょうか」



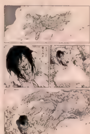
314




313




312

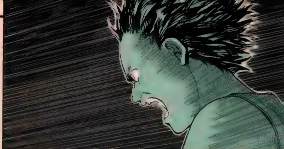


311






右上の表情は雑誌掲載時（第14回19ページ）のもの。単行本化の際に上の表情に描き直された。単行本1巻278ページにあたる。「雑誌に載る時は次回へのヒキを考えて、意識的に派手なラストカットを描いていました。その例がこの雄叫び表情ですね。単行本にする時には、もっと大きな流れを考えて、静かな表情にしています」

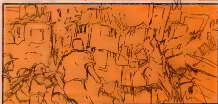






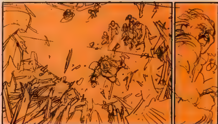






下は単行本３巻の233ページ。右と上はそのNG下描き。「マサルが根津に殺され、根津がキヨコらに超能力によって殺されるシーンです。下描きでは根津が死ぬ方に重点を置いてたんですが、やっぱりちょっと違う。マサルの死と仲間たちの悲しみを描かなきゃいけないと思い直して、描き直しました。彼らの心の中を描かないと、ラボのメンバーが単純な超能力戦士になってしまいますから。これなら、彼らが人間的で弱々しいということがわかっていただけるのではないでしょうか」

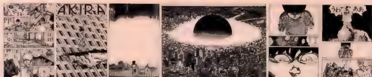


単行本３巻の97ページとそのNG下描き。「なんでアングルを変えたのか!? なんででしょう。今となってはよくわかりませんが、推測するに、セリフの流れを考えたのでしょうか。下描きでは、「騙したのね！」が左上に入る予定でしたが後ろ向きで重要なセリフを言うのはまずいと判断したんだと思います」

左は単行本６巻の178ページ。下は雑誌掲載時の原稿。「なんと言っても空母の爆発シーンですから。スペクタクルです。やっぱりでかいコマで見せたいと思いまして、描き直しました。連載中はどうしてもコマを小さく描いてしまいます」

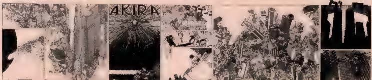
右は単行本３巻の162ページ。上[illegible]掲載時の原稿。「戦車が大砲をぶっ放すシーンです。単行本にする時に、思いっきりカメラを引いて、大砲の光の中の２人という絵に描き直しています。実際に、こうはならないと思うんですが、カッコいいからついやってしまいました。リアルなだけじゃつまらないでしょ」












ジの左右が狂ってきます。順番に並べると、見開きの絵がページをまたぐところも出てきますから、再構成する必要があるわけです。それで、爆発シーンと登場人物のリアクションの順番を考えて単行本では左の構成にしました。映画でもひとつのシーンで数多くのショットを撮り、編集しますがそれに正解があるわけではありません。すべては、編集する人間の感性に委ねられているのです。描く前にふくらんでいたイメージは、実際に描きだすとひとつひとつしぼんでいくような気がします。こんなはずではなかったのに・・・・という軽い失望を感じながらも漫画家は先に進むしかないのです。



雑誌連載時の構成。第46回の16～20ページ、第47回の1～20ページ、第48回の1～7ページ。計32ページ。



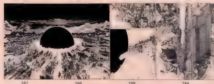













単行本時の構成。単行本３巻の238〜267ページ。
計30ページ。

## 単行本用に再編集してみたが、どの構成が正解か未だにわからない。

この崩壊シーンでは頭の中に描きたい絵が渦巻いていました。『バイオレンスジャック』など崩壊後の世界を描いた作品はありましたが、大崩壊がストーリーの真ん中にあるのはなかったように思います。それを『AKIRA』で実現したかったのです。しかし、納得できる構成をしている時間的余裕が連載中にはありません。しかも、単行本にする際には、雑誌掲載時の扉絵をはずすので、ペー

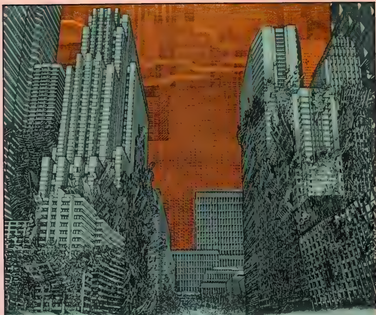
右に同じ。本来なら単行本５巻の276ページの後に入った。「読者アンケートの人気も気になってましたから、連載中はラストページの印象を大事にしていました」

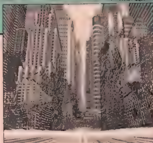
単行本にする際に間引かれたページ。本来なら単行本５巻の36ページの後に入るもの。「連載時にオチとして描いたものです。なくてもいいかな、と思いまして」

## アキラのイメージモデルはアニメ映画『西遊記』に出ています。

アキラはアニメ映画『西遊記』に出てくる小龍という小鬼をイメージしながら描いていました。その憂いを含んだ表情が好きで、アキラを子供に決めた時から、小龍を参考にさせていただこうと思ってたんです。アキラという名前にもモデルがいます。『じゆうを我らに』の編集をしている時に、隣のスタジオから「アキラー！アキラー！」と、怒鳴り声がしょっちゅう聞こえてくるんです。どうも、そういう名前の助監督がいるらしい。映画界でアキラと言えば黒澤明さんです。そのギャップがおもしろくて、いつか描く作品にはアキラを登場させるぞ、と。こんな長編のタイトルになるとは思いもしませんでしたけど。

左は単行本３巻の239ページ。上はその基になった原稿。「コピーずらしの特殊効果です。意外と難しいんです。コピーの光に合わせて原稿をずらすんですけど何回やっても、うまくいかないことがありました。今のデジタルコピーならもっと簡単にできるんでしょうけどね」



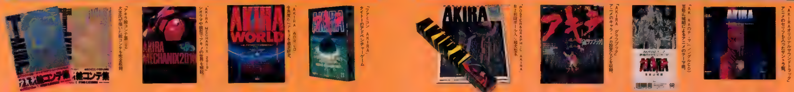


左は単行本6巻の431ページ。上は単行本に描き下ろした扉絵だがNGにしたもの。「いったんは描いたんですが、ヌケがないというか、壁に向かって進んでいるみたいで、描き直して、空が見えるようにしました。瓦礫の街から新しい世界に行こう！っていうイメージが出たんじゃないでしょうか。また、このシーンはビルの描き納めでしたから、一生懸命描いたことを覚えています」




単行本２巻に入る予定だった幻の次巻予告。ページが足りないためにお蔵入りになった。背景に敷きつめた文字は、当時の担当者が原稿待ちの時間に、ヒマにあかして書き上げたものである。「単行本１巻が出る前には、早く出版するように署名運動してくれた人もいました。ありがたいことです」

| | | |
|---|---|---|
| 1982 | 12/16 | 第1回（26P／ヤングマガジン24号） |
| | 12/20 | 第2回（20P／ヤングマガジン1号） |
| 1983 | 01/06 | [illegible]（20P[illegible]号） |
| | 01/17 | 第4回（20P／ヤングマガジン[illegible]） |
| | 02/07 | 第5回（20P／ヤングマガジン[illegible]） |
| | 02/2[illegible] | 第6回（20P／ヤングマガジン5号） |
| | 03/0[illegible] | 第7回（20P／ヤングマガジン6号） |
| | 03/[illegible]8 | 第8回（20P／ヤングマガジン7号） |
| | 04/0[illegible] | 第9回（20P／ヤングマガジン8号） |
| | 04/[illegible] | 第10回（20P／ヤングマガジン9号） |
| | 05/02 | 第11回（20P／ヤングマガジン10号） |
| | 05/16 | 第12回（20P／ヤングマガジン11号） |
| | 06/06 | 第13回（20P／ヤングマガジン12号） |
| | 06/20 | 第14回（20P／ヤングマガジン13号） |
| | 07/04 | 第15回（20P／ヤングマガジン14号） |
| | 07/18 | 第16回（20P／ヤングマガジン15号） |
| | 08/01 | 第17回（20P／ヤングマガジン16号） |
| | [illegible]/12 | 第18回（20P／ヤングマガジン17号） |
| | [illegible]/05 | 第19回（20P／ヤングマガジン18号） |
| | [illegible]/19 | 第20回（20P／ヤングマガジン19号） |
| | 10/03 | 第21回（20P／ヤングマガジン20号） |
| | 10/17 | 第22回（20P／ヤングマガジン21号） |
| | 11/07 | 第23回（20P／ヤングマガジン22号） |
| | 11/21 | 第24回（20P／ヤングマガジン23号） |
| | 12/05 | 第25回（20P／ヤングマガジン24号） |
| | 12/19 | 第26回（20P／ヤングマガジン1号） |
| 1984 | 01/06 | 第27回（20P／ヤングマガジン2号） |
| | 02/06 | 第28回（20P／ヤングマガジン4号） |
| | 02/20 | 第29回（20P／ヤングマガジン5号） |
| | 03/05 | 第30回（20P／ヤングマガジン6号） |
| | 03/19 | 第31回（20P／ヤングマガジン7号） |
| | 04/02 | 第32回（20P／ヤングマガジン8号） |
| | 04/16 | 第33回（20P／ヤングマガジン9号） |
| | 05/04 | 第34回（20P／ヤングマガジン10号） |
| | 05/17 | 第8回講談社漫画賞受賞 |
| | 05/21 | 第35回（4P／ヤングマガジン11号） |
| | 06/04 | 第36回（21P／ヤングマガジン12号） |
| | 06/18 | 第37回（20P／ヤングマガジン13号） |
| | 07/02 | 第38回（17P／ヤングマガジン14号） |
| | 08/06 | 第39回（20P／ヤングマガジン16号） |
| | 08/20 | 第40回（20P／ヤングマガジン17号） |
| | 09/03 | [illegible]回（20P／ヤングマガジン18号） |
| | 09/17 | 第42回（17P／ヤングマガジン19号） |
| 1984 | 09/21 | 単行本1巻発売 |
| | 10/01 | 第43回（20P／ヤングマガジン20号） |
| | 10/15 | 第44回（20P／ヤングマガジン21号） |
| | 11/05 | 第45回（17P／ヤングマガジン22号） |
| | [illegible] | [illegible]6回（2[illegible]） |
| | 12/03 | 第47回（20P／ヤングマガジン[illegible]） |
| | 12/17 | 第48回（20P／ヤングマガジン[illegible]号） |
| 1985 | 02/18 | 第49回（16P／ヤングマガジン[illegible]号） |
| | 03/04 | 第50回（18P／ヤングマガジン6号） |
| | 03/18 | 第51回（16P／ヤングマガジン7号） |
| | 04/01 | 第52回（16P／ヤングマガジン8号） |
| | 04/15 | 第53回（18P／ヤングマガジン9号） |
| | 05/04 | 第54回（18P／ヤングマガジン10号） |
| | 05/20 | 第55回（18P／ヤングマガジン11号） |
| | 06/03 | 第56回（16P／ヤングマガジン12号） |
| | 07/15 | 第57回（16P／ヤングマガジン15号） |
| | 08/20 | 第58回（18P／ヤングマガジン17号） |
| | 09/02 | 第59回（18P／ヤングマガジン18号） |
| | 09/04 | 単行本2巻発売 |
| | 09/21 | 第60回（20P／ヤングマガジン19号） |
| | 10/21 | 第61回（20P／ヤングマガジン21号） |
| | 11/02 | 第62回（20P／ヤングマガジン22号） |
| | 11/18 | 第63回（16P／ヤングマガジン23号） |
| | 12/02 | 第64回（19P／ヤングマガジン24号） |
| | 12/16 | 第65回（18P／ヤングマガジン1号） |
| 1986 | 01/05 | 第66回（19P／ヤングマガジン2号） |
| | 02/03 | 第67回（17P／ヤングマガジン4号） |
| | 02/17 | 第68回（20P／ヤングマガジン5号） |
| | 03/03 | 第69回（17P／ヤングマガジン6号） |
| | 03/17 | 第70回（19P／ヤングマガジン7号） |
| | 04/07 | 第71回（20P／ヤングマガジン8号） |
| | 05/02 | 第72回（18P／ヤングマガジン10号） |
| | 06/02 | 第73回（16P／ヤングマガジン12号） |
| | 06/16 | 第74回（15P／ヤングマガジン13号） |
| | 07/07 | 第75回（17P／ヤングマガジン14号） |
| | 07/21 | 第76回（17P／ヤングマガジン15号） |
| | 09/01 | 第77回（20P／ヤングマガジン18号） |
| | | 単行本3巻発売 |
| | 09/20 | 第78回（17P／ヤングマガジン[illegible]号） |
| | 10/20 | 第79回（20P／ヤングマガジン21号） |
| | 11/01 | 第80回（15P／ヤングマガジン22号） |
| | 11/17 | 第81回（17P／ヤングマガジン[illegible]） |
| | 12/01 | 第82回（17P／ヤングマガジン[illegible]） |
| | 12/15 | 第83回（15P／ヤングマガジン1号） |
| 1987 | 01/06 | 第84回（17P／ヤングマガジン2号） |
| | 02/02 | 第85回（17P／ヤングマガジン4号） |
| | 03/16 | 第86回（17P／ヤングマガジン7号） |
| | 04/06 | 第87回（20P／ヤングマガジン8号） |
| | [illegible]/18 | 単行本4巻発売 |
| 1988 | 05/28 | 「AKIRA ビデオクリップ」（ビデオ&映画鑑賞券）発売 |
| | 07/04 | 「AKIRA WORLD」発売 |
| | 07/08 | 「POSTER & GRAPHIC AKIRA」発売 |
| | 07/15 | 「AKIRA PRODUCTION REPORT―大友克洋の世界と映画アキラ」（ビデオ）発売 |
| | 07/16 | 映画「AKIRA」全国一斉公開 |
| | | 「AKIRA 劇場用パンフレット」発売 |
| | | 「AKIRAのテーマ」（シングルCD）発売 |
| | | 「アキラ絵コンテ集①」発売 |
| | 07/25 | 「AKIRA PRODUCTION REPORT」（レーザーディスク）発売 |
| | 07/27 | 「Symphonic Suite AKIRA」（LP & CD）発売 |
| | 08/01 | 「AKIRA mechanix 2019」発売 |
| | 08/10 | 「AKIRAオリジナルサウンドトラック」（LP&CD）発売 |
| | 08/12 | 「アキラ絵コンテ集②」発売 |
| | 08/29 | 「アニメKC アキラ①」発売 |
| | 09/17 | 「アニメKC アキラ②」発売 |
| | 10/01 | 「AKIRA グラフブック」発売 |
| | 10/07 | 「国際版 AKIRA①」発売 |
| | 10/13 | 「アニメKC アキラ③」発売 |
| | 11/05 | 「アニメKC アキラ④」発売 |
| | 11/07 | 第88回（15P／ヤングマガジン22号） |
| | 11/21 | 第89回（20P／ヤングマガジン23号） |
| | 12/01 | 映画「AKIRA」（ビデオ）発売 |
| | 12/05 | 第90回（20P／ヤングマガジン24号） |
| | 12/06 | 「アニメKC アキラ⑤」発売 |
| | 12/15 | 映画「AKIRA」（レーザーディスク）発売 |
| | 12/24 | ファミコン「AKIRA」発売 |
| | | ファミコン「AKIRA」完全攻略本発売 |
| 1989 | 01/06 | 第91回（15P／ヤングマガジン2号） |
| | 01/17 | 第92回（15P／ヤングマガジン3号） |
| | 02/06 | 第93回（20P／ヤングマガジン4号） |
| | 02/20 | 第94回（15P／ヤングマガジン5号） |
| | 03/06 | 第95回（20P／ヤングマガジン6号） |
| | 03/17 | 「国際版 AKIRA②」発売 |
| | 03/20 | 第96回（17P／ヤングマガジン7号） |
| | 04/17 | 第97回（19P／ヤングマガジン10号） |
| | 05/08 | 第98回（[illegible]／ヤングマガジン13号） |
| | 05/22 | 第99回（17P／ヤングマガジン15号） |
| 1989 | 06/05 | 第100回（16P／ヤングマガジン17号） |
| | 06/19 | 第101回（16P／ヤングマガジン19号） |
| | 06/23 | 「国際版 AKIRA③」発売 |
| | 07/03 | 第102回（16P／ヤングマガジン21号） |
| | 07/[illegible] | [illegible]（[illegible]23号） |
| | 07/[illegible] | 第104回（17P／ヤングマガジン25号） |
| | 08/[illegible] | 第105回（16P／ヤングマガジン28号） |
| | 09/[illegible] | 第106回（16P／ヤングマガジン[illegible]0号） |
| | [illegible] | 第107回（20P／ヤングマガジン[illegible]6号） |
| | [illegible] | 「国際版 AKIRA④」発売 |
| | [illegible] | 第108回（16P／ヤングマガジン[illegible]号） |
| | [illegible]3 | 第109回（17P／ヤングマガジン[illegible]号） |
| | [illegible]27 | 第110回（17P／ヤングマガジン[illegible]号） |
| | [illegible] | 第111回（17P／ヤングマガジン[illegible]号） |
| 1990 | [illegible]/05 | 第112回（17P／ヤングマガジン[illegible]） |
| | [illegible]/22 | 第113回（12P／ヤングマガジン[illegible]） |
| | 02/05 | 第114回（17P／ヤングマガジン[illegible]） |
| | 02/19 | 第115回（18P／ヤングマガジン[illegible]） |
| | 02/23 | 「国際版 AKIRA⑤」発売 |
| | 03/19 | 第116回（21P／ヤングマガジン[illegible]） |
| | 05/07 | 第117回（13P／ヤングマガジン23[illegible]） |
| | 05/14 | 第118回（19P／ヤングマガジン24[illegible]） |
| | 05/28 | 第119回（15P／ヤングマガジン26[illegible]） |
| | 05/31 | 「国際版 AKIRA⑥」発売 |
| | 06/11 | 第120回（16P／ヤングマガジン28号） |
| | 08/31 | 「国際版 AKIRA⑦」発売 |
| | 12/10 | 「国際版 AKIRA⑧」発売 |
| | 12/11 | 単行本5巻発売 |
| 1991 | 04/20 | 「国際版 AKIRA⑨」発売 |
| | 09/20 | 「国際版 AKIRA⑩」発売 |
| 1992 | 06/20 | 「国際版 AKIRA⑪」発売 |
| 1993 | 03/23 | 単行本6巻発売 |
| | 03/25 | 「スペシャルコレクション AKIRA」（3枚組レーザーディスク）発売 |
| | 06/21 | 「AKIRA」（低価格ビデオ）発売 |
| 1995 | 06/0[illegible] | 「AKIRA CLUB」発売 |




「アキラ絵コンテ集②」大友氏が描いた絵コンテを完全収録

「AKIRA MECHANIX 2019」ジオラマや模型でアキラの世界を解説

「AKIRA WORLD」全角度からアキラを徹底研究

「ファミコン AKIRA」タイトーのアドベンチャーゲーム

「POSTER&GRAPHIC AKIRA」B2判段ボール入り超大型本

「AKIRA グラフブック」アニメのキャラ・メカ設定などを収録

「AKIRAのテーマ」（シングルCD）芸能山城組によるアニメのテーマ曲

「AKIRAオリジナルサウンドトラック」アニメのセリフも入ったサントラ盤

# OTOMO 1982–1990

Q. 今年かいた最大の恥は?
A. たいして恥もなく年を越せそうです（'82・12・20）
Q. お正月の予定は?
A. お正月も忙しいけれどスケジュールを調整して里帰りします（'83・1・3）
Q. 今年の目標は?
A. 「アキラ」を無事に描き上げること（'83・1・17）
Q. 好きなナツメロは?
A. 「月光仮面」「東京ラプソディー」「夜来香」（'83・2・7）
Q. 納豆の好きな食べ方は?
A. 故郷の「若草納豆」なら何も混ぜなくても美味!（'83・2・21）
Q. 見逃したくないテレビ番組は?
A. 「ダイナマン」（'83・3・7）
Q. 生まれて初めて見た映画は?
A. 初体験は3歳の頃。たぶん日活のギャングものを観た記憶がある（'83・3・21）
Q. 校内暴力の経験は?
A. これといった校内暴力は起こさなかった（'83・4・4）
Q. 高校時代のお弁当で好きなメニューは?
A. ごはんの上の一角にのりがのっているお弁当（'83・4・18）
Q. 昔、好きだったプロレスラーは?
A. 「[illegible]」（'83・5・2）
Q. 好きなインスタント・ラーメンは?
A. 元祖・日清の「チキンラーメン」（'83・5・16）
Q. 徹夜の時の眠気解消法は?
A. まわりの人と会話して眠気をさます（'83・6・6）
Q. 最近、仕事の合間に何を?
A. 見逃したTV映画のビデオを観ている（'83・6・20）
Q. 夏休みの予定は?
A. 海に行って、アワビやサザエの密漁をしたい（'83・7・4）
Q. 夏になると食べたくなるものは?
A. 自分でもぐってとったアワビやサザエが食べたくなる（'83・7・18）
Q. 水泳は得意?
A. クロールで100メートルは疲れるので50メートル泳ぐことにしている（'83・8・1）
Q. 地震が来たら?
A. 仕事場の前の空地のまん中でじっとしている（'83・8・15）
Q. 何か免許とか特技は?
A. 赤ン坊の頃、「健康優良児」の表彰を受けた(らしい)（'83・9・5）
Q. 健康管理の秘訣は?
A. あまり仕事をしないこと（'83・9・19）
Q. 好きなブランド品は?
A. ブランドといったら、「タビはやっぱり福助ですね」（'83・10・3）
Q. 授業参観の思い出は?
A. 授業参観の日は休みだと思っていた（'83・10・17）
Q. 旅行したい国は?
A. インドに行ってカレーを食べたい（'83・11・7）
Q. 最近見たコンサートなどで良かったものは?
A. 後楽園でみたゴーグルファイブショーが一番おもしろかった（'83・11・21）
Q. おでんの具の中で好きなものは?
A. 卵とはんぺん（'83・12・5）
Q. 好きなお菓子は?
A. するめいかのみりんづけ（'83・12・19）
Q. お正月の予定は?
A. 正月映画がつまらないので実家に帰る（'84・1・[illegible]）
Q. お雑煮の中には何を?
A. 田舎では千切りの大根を入れる（'84・2・6）
Q. バレンタインデーのチョコレートは何が好き?
A. あんまりベタ甘くないものがいい（'84・2・20）
Q. パチンコは得意?
A. 年に2、3回やる程度で、以前にはたくさん出したこともある（'84・3・19）
Q. 元気が出てくる曲は?
A. ニナ・ハーゲンの曲を聴くと元気が出てくる（'84・4・2）
Q. フォークダンスの思い出は?
A. 踊った記憶はあるけれど、踊り方は忘れてしまった（'84・4・16）
Q. セコイことやったことありますか?
A. だれかが忘れていったシャーペンでアキラを描き続けている（'84・5・7）
Q. 酒のつまみで好きなものは?
A. うなぎの肝焼きが大好物（'84・5・21）
Q. もし刑務所に入れられるとしたら差し入れは?
A. 冷や麦かソーメンにしてほしい（'84・6・[illegible]）
Q. これまでの人生でスポーツの栄光のシーンは?
A. 今のところない（'84・6・18）
Q. 最近、観たい映画は?
A. 上映時間5時間の「1900年」をぜひ[illegible]（'84・7・2）
Q. 愛読紙は?
A. 読売新聞の縮刷版を愛読している（'84・7・16）
Q. 夏の予定は?
A. この夏は、ビールをひかえたい（'84・8・20）
Q. 夏祭りの思い出は?
A. 子供の頃、お祭りに来る見世物を見たかったのに、とうとう行けなかった（'84・9・3）
Q. 最近、気になる人物といえば?
A. もちろん「アキラ」の登場人物たちですよ（'84・9・17）
Q. 得意料理は?
A. 僕がつくれるのはケチャップスパゲティです（'84・10・1）
Q. 最近、お気に入りの曲は?
A. レイ・パーカーJr.の「ゴーストバスターズ」（'84・10・15）
Q. 仕事中に急に食べたくなるものは?
A. ちょっと前まではトリのモモ焼きが食べたかった（'84・11・5）
Q. 嫌いな食べ物は?
A. 子供のころは、肉と魚がだめなベジタリアンだった（'84・11・19）
Q. どんな仕事場ですか?
A. 12～13畳くらいの広さで、窓がいっぱいある部屋を仕事場にしている（'84・12・3）
Q. 思い出のクリスマス・プレゼントは?
A. 高校生の頃、女のコから毛糸の手袋をもらった（'84・12・17）
Q. 好きなおせち料理は?
A. 正月はいつも酔っぱらっているので、おせち料理にはあまり印象がない（'85・1・7）
Q. お風呂といえば?
A. 酔って銭湯に入って倒れたことがある（'85・3・4）
Q. 好きな駅弁は?
A. どこの駅でも、とにかく幕の内弁当（'85・3・18）
Q. 嫌いなプロ野球選手は?
A. プロ野球はあまり見ないので、とくに嫌いな選手もいない（'85・4・1）
Q. 給食で好きだったのは?
A. ビーフン（'85・4・15）
Q. 最近、腹が立ったことは?
A. いい加減な文章で、ある宗教の信者にさせられた（'85・5・6）
Q. 最近の推薦レコードは?
A. 「ARAGON」ですね（'85・5・20）
Q. 最近、探しているものは?
A. 今、なくなった原稿を探している（'85・6・3）
Q. 今、マンガ以外で熱中していることは?
A. とくにない（'85・6・17）
Q. この夏の遊びの予定は?
A. まだ遊びの予定はたっていない（'85・8・5）
Q. 夏、好きな飲み物は?
A. 夏の飲み物は汗[illegible]るので、今年は熱いお茶にしている（'85・9・2）
Q. 原稿をあげた後、何をしますか?
A. まず寝る（'85・9・16）
Q. お気に入りのビデオやLDは?
A. 都はるみのラストコンサートのLD（'85・10・7）
Q. 今、とくに会いたい人は?
A. 今、とくに会いたい人はいない（'85・11・4）
Q. 習いたいものは?
A. スキーを習ってみたい（'85・11・18）
Q. 最近観て[illegible]たモノは?
A. 「酎ハイれもん」のビデオ（'85・12・2）
Q. 今年の心残りは?
A. 今年はプールに行けなかったこと（'85・12・16）
Q. 年末・年始の予定は?
A. 今年の大晦日は寒いから、コタツで酒でも飲みながら新年を迎えたい（'86・1・6）
Q. 初詣でお祈りしたことは?
A. 「アキラ」単行本第3巻が早く出るように祈願した（'86・1・20）
Q. おすすめの品は?
A. ビデオは「ソニーのβがんばれ!」の心境です（'86・2・17）
Q. 嫌いなタレントは?
A. TVでヘラヘラ笑っているタレントは大体キライです（'86・3・3）
Q. 仕事場に飼ってあるものは?
A. 仕事場には、くさいウンコをするネコがいます（'86・3・17）
Q. 直したいクセは?
A. 飲み屋でテーブルがさびしいと、食べもしないツマミをとってしまうクセ（'86・4・7）
Q. 観たい映画は?
A. 6月頃公開される「ブラジル」を見たいと思っている

# Questionnaire to

# 大友克洋アンケート

●ヤングマガジン連載時、毎回欄外に掲載された編集部アンケートを収録。

(86・4・21)

Q．最近、気になるニュースは？
A．アメリカとリビアの紛争 (86・5・19)

Q．愛車は何を？
A．2年くらい乗っている黄色い自転車 (86・6・16)

Q．雨の日にすることは？
A．雨の降る日は、たまったビデオを見てすごす (86・7・7)

Q．仕事が手につかない時はどんな時？
A．天気がいいと仕事が手につかない (86・7・21)

Q．この夏を涼しく過ごすには？
A．あんまり水を飲まず、汗を出さないようにします (86・8・4)

Q．カッコいい人は誰？
A．カッコ悪い人はたくさんいるけど、カッコいい人はちょっと浮かばない (86・9・15)

Q．最近の悩みは？
A．猫のトロのノミが異常にふえて悩んでいる (86・10・6)

Q．最近面白かった本は？
A．「ヤクザという生き方」(別冊宝島) が面白かった (86・11・3)

Q．自慢のコレクションは？
A．ベルマークです (86・11・17)

Q．人前で何かするとしたら？
A．人前に出るのはあまり好きじゃないです (86・12・1)

Q．おにぎりは何が好き？
A．おにぎりの具はシャケがいい (86・12・15)

Q．クリスマスの予定は？
A．みんなでパーティーでもしたいですね (87・1・5)

Q．初詣でお祈りしたことは？
A．今年は何かいいことがありますように、とお願いしてきた (87・1・19)

Q．最近観た映画は？
A．近頃は映画を観ていない (87・2・16)

Q．気分をリフレッシュする方法は？
A．アシスタントとダーツゲームをすること (87・4・6)

Q．暇な時の過ごし方は？
A．縁側でタクアンかじりお茶を飲むかな (87・4・20)

Q．子供の頃、夢中になった遊びは？
A．ざりがに釣り (88・11・21)

Q．仕事中のBGMは？
A．アニメーターの森本君にダビングしてもらったイエローのレースという曲が気に入って、よく聞いています (88・12・5)

Q．今年のイブの過ごし方は？
A．時節から、自粛していようと思っています (88・12・19)

Q．鍋物にはこれが入ってなきゃね？
A．とうふです (89・1・16)

Q．子供の頃のお年玉の使い道は？
A．覚えていません (89・2・6)

Q．初めてバレンタイン・チョコをくれた人は？
A．中学2年のときにもらったのは覚えています (89・2・20)

Q．これだけは食べられないものは？
A．生きたサルの脳みそ (89・3・6)

Q．春のにおいは何ですか？
A．ジンチョウゲ (89・3・20)

Q．とっておきのかくし芸は？
A．別にありません (89・4・3)

Q．もし、タイムマシンがあったとしたら？
A．それは一大事だ！ もしあるものなら見てみたい (89・5・1)

Q．最近見た夢は？
A．編集に追いまわされる夢 (89・5・22)

Q．子供の頃よくやったイタズラは？
A．農家の庭や畑から、梨・柿・大根・人参を盗んで食べてました (89・6・5)

Q．透明人間になれるとしたら？
A．こんな質問を作った人を殴りに行く (89・6・19)

Q．地球滅亡の前日、何をしますか？
A．この欄の担当者に、もっとウィットに富んだ質問をしてもらいたいと切に願います (89・7・3)

Q．このクセだけは直らない！
A．雨が降ると悲しくなるクセ (89・7・17)

Q．眠気覚ましの方法は？
A．おしかりのファンレターを読む (89・7・31)

Q．何を着て寝ますか？
A．パジャマ (89・8・14)

Q．かき氷は何味が好き？
A．イチゴ (89・9・4)

Q．好きなお酒の銘柄は？
A．どんなに飲んでも二日酔いしないお酒 (89・9・18)

Q．最近観たおもしろいビデオは？
A．知り合いのアニメーターに借りた「ピーターパンの冒険」の傑作集が面白かった (89・10・30)

Q．イタコの口よせで誰を呼んでほしい？
A．志ん生を呼んで落語の「三年目」をやってもらう (89・11・13)

Q．あなたにとってのヒーローは誰？
A．思いつかない (89・11・27)

Q．住んでみたい街は？
A．ニースで億万長者のように暮らしたい (89・12・11)

Q．自分の人生を変えたと思う選択は？
A．それは今考えているから話すわけにはいかない (90・1・14)

Q．'90年を勝手に予測して下さい。
A．自民党が負けて消費税が廃止されて、日本はパニックになる (90・1・22)

Q．最近気に入っている俳優は？
A．志村喬 (90・2・5)

Q．好きな異性の名前は？
A．〇〇子の付く名前 (90・2・19)

Q．もう一度観たい映画は？
A．「君に愛の月影を」「旅路の果て」 (90・3・5)

Q．小さい頃の夢は？
A．しめきりのないマンガ家になる (90・4・2)

Q．平均睡眠時間は？
A．7→5→3→0時間 (90・5・21)

Q．旅行に行くならどこに行きたい？
A．人のいない所 (90・5・28)

Q．心に残っている一冊の本は？
A．H・G・ウェルズの「宇宙戦争」 (90・6・11)

Q．尊敬する人は？
A．立派な仕事をしている人は、みんな尊敬しています (90・6・25)

作者、病気加療中のため
ひきつづき休載させて頂きます。

次号は登場の予定・・・・

AKIRA
OTOMO KATSUHIRO

(ヤングマガジン1987年3月16日号)

【全面お詫び】

AKIRA ILLUSTRATIONS 1982−1993

# アキラ クラブ AKIRA CLUB



created by KATSUHIRO OTOMO

art director AKIRA SAITO (Pencil Studio)

designer AKIKO YOSHIBA

assistant staff YASUMITSU SUETAKE, SATOSHI TAKABATAKE, MAKOTO SHIOSAKI

printing supervisor HIROYUKI KOSHU (Toppan Printing Co., Ltd.)

typesetting SENKOSHA

edited by KOICHI YURI, YASUMASA SHIMIZU, JUNJI SEKI, HISATAKA NISHITANI, HIROAKI MORITA, KEIICHI OKOCHI (KODANSHA)

editorial support OSAMU YOSHIBA, YUKA ANDO, YOSHIMASA MIZUO, KEN TSUNODA (KODANSHA)

special thanks to AKIHIKO TAKADERA, AKIHIRO HAKAMADA, AKIRA SASO, AKIRA TAGATA, ARCHIE GOODWIN, FUKUKO NAGAYASU, FUMIO IDA, GO MOMOHARA, HARUKI IZUMI, HAZUKI IWAMOTO, HIDEKI ISHIKAWA, HIROSHI HIRATA, HIROYUKI KITANO, HISASHI KUROMA, KATSU YOSHIDA, KATSUZO OZAWA, MASAYUKI KUSUMI, MINETARO MOCHIZUKI, MITSUTERU YOKOYAMA, NAOMI KIMURA, SATOSHI KON, SHINJI KUBOTA, SHINJI SUGIYAMA, SO MINAMIDA, STEVE OLIFF, TAKUMI NAGAYASU, TETSUJI HANABUSA, TOSHIHITO IZAWA, YOKO OTOMO, YUKARI AKAHOSHI, ASAKUSA MATSUSHITA SHOUTEN, ATRIER MORITA, BANDAI CO., LTD., GAIFUSHA, GEINO YAMASHIRO-GUMI, IRA, NIKOLI Inc., PIONEER LDC, SUDO ART KOBO, TAITO CORPORATION, TOEI ANIMATION CO., Ltd. and the many orhers who commissioned AKIRA



MASH ROOM
COMPANY LTD.
BY
KATSUHIRO OHTOMO


1995年6月9日　第1刷発行
（定価は表紙に表示してあります）

著者　大友克洋（おおともかつひろ）
発行者　山野勝
発行所　株式会社講談社
〒112-01 東京都文京区音羽2-12-21
電話　編集部（03）5395-3461
　　　販売部（03）5395-3608
印刷所／製本所　凸版印刷株式会社





©1995 MASH・ROOM
本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。



Printed in Japan　N.D.C.726 261p 26cm
■落丁本、乱丁本は小社雑誌業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。
なお、この本の内容についてのお問い合わせはヤングマガジン編集部宛にお願いいたします。

ISBN4-06-330003-X（ヤマ）

# OTOMO KATSUHIRO



この本でやっと『アキラ』にピリオドを打つ事が出来ました。
終わって見れば長いような短いような……
良く描いたなァと云う気もすれば描き足らなかったような気もします。
まァこんなところでしょうか……
何年か前、どう云った心境で書いたのか忘れてしまいましたが
画板の隅に書いた句をひとつ。
「メシ喰えは、泣けど笑えど糞の出る」
食事中の人は御免なさい。
では、又、次の作品で──。

1995.大友克洋

**THE MEMORY OF AKIRA LIVES ON IN OUR HEARTS!**





ISBN4-06-330003-X
C0979 P3500E (0)
講談社 定価3500円(本体3398円)
